アミナタ調査隊 2017

手洗い報告書

「アミナタ調査隊」名前の由来：手洗い指導を目的とした「手を洗おう会」オリジナルの紙芝居に登場する正しく手洗いのできるアミナタちゃんを隊長とするアンケート調査隊

―日本、ベトナム、タイ、セネガルにおける手洗いの実態を探る国別、性別、年齢別比較調―

手を洗おう会　aphw

手洗いアンケート調査報告書

本文

I. アンケート調査実施の経緯

１．APHW 設立の理念と動機

当協会が設立理念として定款に掲げる活動目標は、2000 年の国連ミレニアムサミットにおいて採択されたミレニアム開発目標（MDGｓ）8 項目に多くの点で整合するものであり（下記)、極めて軽微な個人レベルの協力ではあるが、会員一同の善意と無償の貢献を条件として過去 15 年間に渉り活動してきた。

ミレニアム開発目標			APHW の活動内容
MDGｓ	ゴール２	初等教育の普及	(低学年児童教育への協力・支援)
MDGｓ	ゴール４	幼児死亡率の削減	(手洗い運動の普及促進・支援)
MDGｓ	ゴール６	疾病の蔓延防止	(手洗い運動の普及促進・支援)
MDGｓ	ゴール８	開発のグローバル パートナーシップ推進	(児童の文化交流を通じた 国際交流の促進)

２．当会の活動対象

今日現在、当会の活動対象国は日本、セネガル、タイ、ベトナムの四ヵ国である。また、夫々の国の活動対象は特定の初等学校及びその児童達であり、これらの学校をモデル支援校として継続的に教育・支援活動を実施し、その成果をモニタリングしつつ「手洗い運動」および「文化交流」の成果を観察・評価し、当会活動の目標達成に向けて努力をしている。また、日本以外の国における活動には、私たちの活動に賛同する現地協力者の積極的理解と献身的参加により、建設的に活動が促進されてきている。

３．アンケート調査

この度、「手を洗おう会」の設立１５周年を迎え、これまでの活動の成果を反省を込めて総括し、当会の次なる展開を目指すための体制の整備と新たな活動戦略策定を目的として、今回のアンケート調査を実施することとした。

II. 改めて「手洗い」習慣の重要性を考える

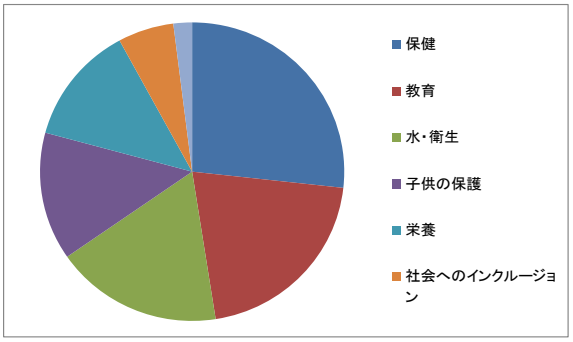
１．国際的「手洗い」運動

「手洗い」の重要性は、多くの病気患者を取り扱う病院において「手洗い」と「院内感染」の因果関係が立証されており、米国の CDC（米国疾病予防管理センター）は「病原体の拡散を防ぐのに最も重要な方法は有効な手洗いである」として、医療機関に従事する全従業員に手洗いの励行を厳しく義務付けている。

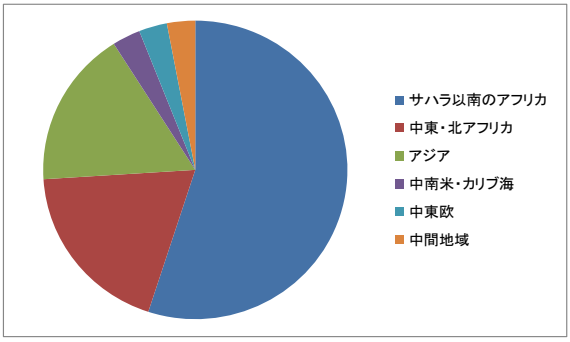
また、「手洗い」運動は今や国際的レベルの活動展開がなされており、国連児童基金（UNICEF）も子供の命を守る重要な活動の一環として「手洗いキャンペーン」を広範に行っている。「手洗い」の励行は身の回りに常在する多種の伝染性疾病から身を守り、拡散を防ぎ、日常の健康を維持するための最も重要且つ基本的手段として有効であり、特に幼児死亡の大きな原因の一つとなっている経口感染性疾病の予防には大きな効果があるとされている。特に社会インフラの未整備な途上国においては、非常に重要な生活習慣としてその定着が望まれており、日本においても厚労省は「日常手洗い」の手順を指定し、学校教育を通じて指導を行っている。

下記の図に見る通り、“子供の命を守る” UNICEF の活動および資金配分（2015 年）の重点は、「保健」、「教育」、「水と衛生」の 3 分野に置かれ、全体の 66%を占めている。また、資金の地域的配分はサブサハラ（サハラ以南）アフリカが全体の 55%、アフリカ・アジアで 92%を占めており、児童の健康維持に課題の多い地域の現実を反映している。

UNICEFの活動及び支出分野（2015）



UNICEFの活動及び支出地域（2015）



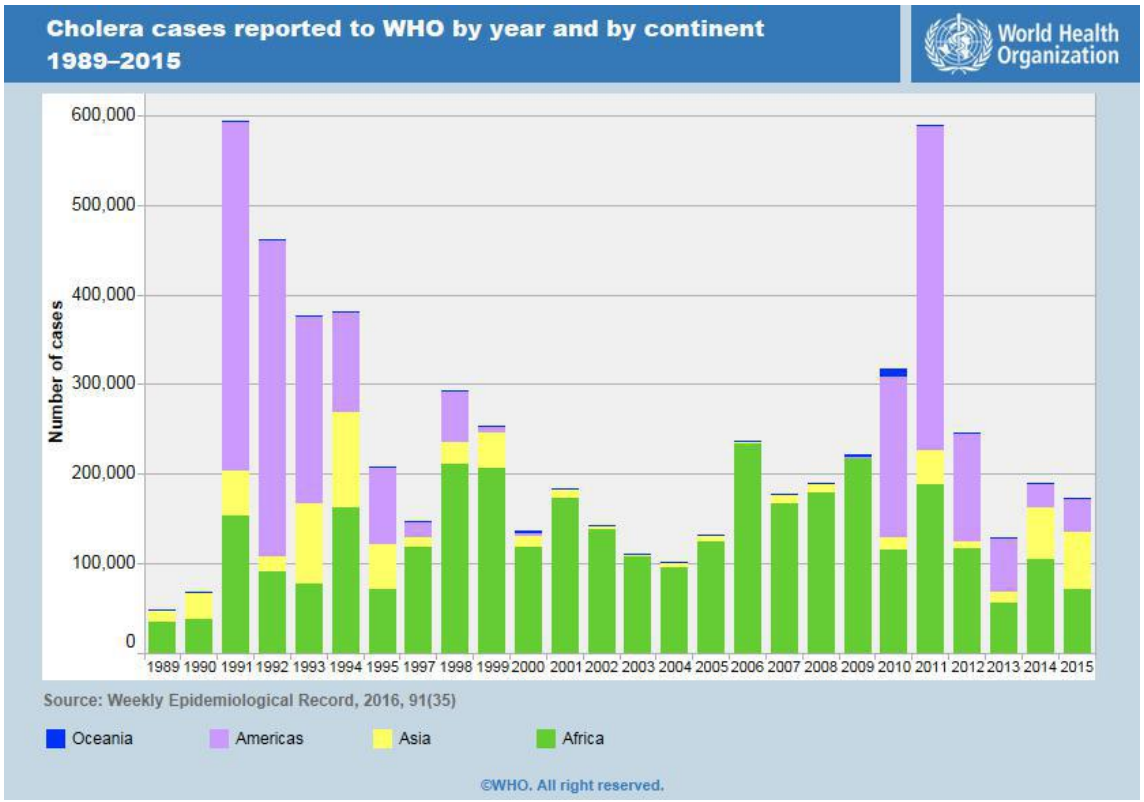
２．対象地域における保健の実態

現在当会が活動の対象としている支援対象国は、世界の保健医療環境的に最も課題の多いアフリカ（セネガル）及び東南アジア（タイ、ベトナム）の国々である。一方、日本は経済的に進んだ国の一つとして、且つ世界一の長寿国として他の 3 か国との生活環境の相違点等を考察し、当会の活動に参考となる課題を抽出するための比較対象基準国として選択した。以下に、これらの国々の一般的保健事情を次の 3 つの視点で比較してみた。

（1）経口伝染病罹患状況の地域差

経口性の伝染病として、途上国では最も一般的で致死率の高いコレラの逐年発症数の地域別統計は下記の図－３の通りである。この図から分かる通りアフリカにおけるコレラの発症は常態的且つ重篤であり、米州（中南米諸国）及びアジア地域では時として爆発的に発生する状況が見て取れる。「手を洗おう会」セネガル設立時の 2002 年もアフリカは高い発症数が認められる。因みに、直近の 2014・2015 年にアジアでの伝染拡大（パンデミック）が顕著に見られた。

図―３　世界の地域別コレラ発症数の変遷

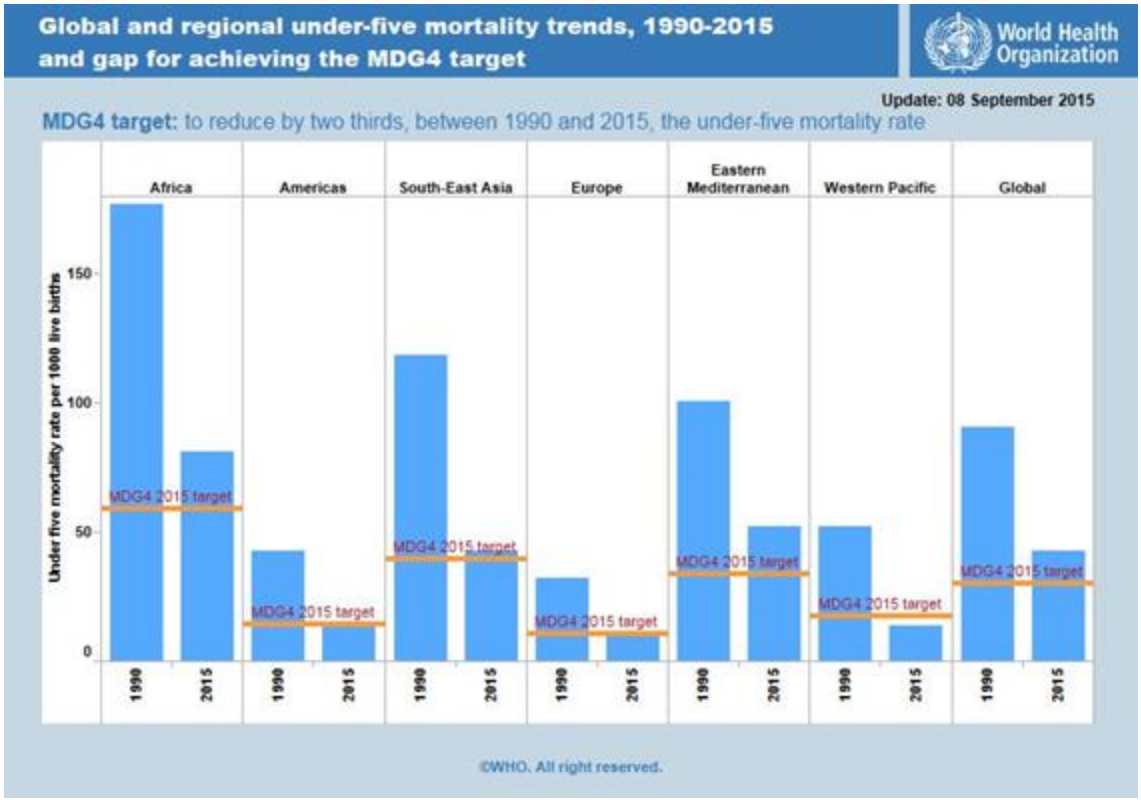


出典：WHO 統計

（2）幼児死亡率

下図－4は、世界の満 5 歳未満の幼児 10 万人当たりの死亡数を 1990 年と 2015 年について地域別に表示している。同図に見る通り、過去 25 年間の死亡率改善が著しいことが分かるが、一方、アフリカと東南アジアでは、改善されたとはいいながら、他の地域に比べて依然として高い幼児死亡数が認められる。

図―4　世界の地域別幼児死亡数の変化（1990 年―2015 年）



出典：WHO 統計

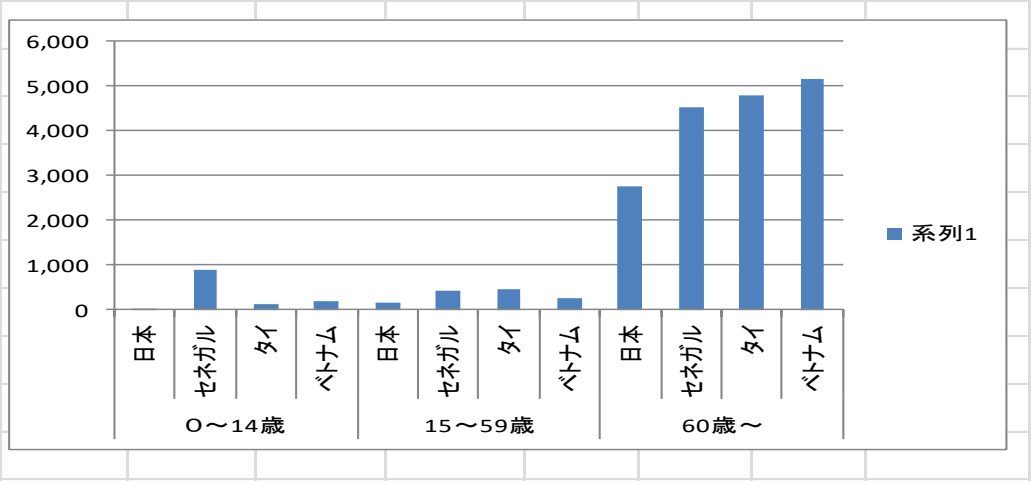
（3）年齢層別、地域別疾患の特徴

日本は世界における最長寿命を誇る国であるが、年齢区分別の疾病者数と罹患病種で対象国と比較すると、日本では高齢者の疾病者数（肺結核と下痢性疾患）が多く、セネガルでは幼児の疾患者数（下痢性疾患、はしか等の小児疾患）が多く幼児死亡率も高い。タイとベトナムでは成人および高齢者の肺結核が多く、タイでは高齢者の下痢性疾患が多い。全体としては、感染性疾患による死亡者数が非感染性疾患による死亡者数を上回り、特に熱帯・亜熱帯性気候地域（アフリカ、東南アジア等）における感染症菌の環境適性により日本以外の 3 国における感染症罹患率は高く、特に下痢性疾患を伴う感染症の予防管理の一層の強化が必要であることが理解される。

（4）対象国別・年齢層別・疾病別死亡者数

下図－５に見る通り、全疾患による年齢層別死亡者数は当然のことながら高い年齢層程多い。しかしセネガルにおける幼児（０～5 歳）の死亡者数が他の３国に比べて著しく多く且つ感染症（特に下痢性感染症）による死亡数が多い（図―６、７）ことから、幼児の健康維持に責任のある両親および家族の衛生管理に課題があると考えられるのではないだろうか。図―９に見る通り、非感染性疾患による死亡者数の比較では、感染症疾患のような国による極端な差異は認められない。

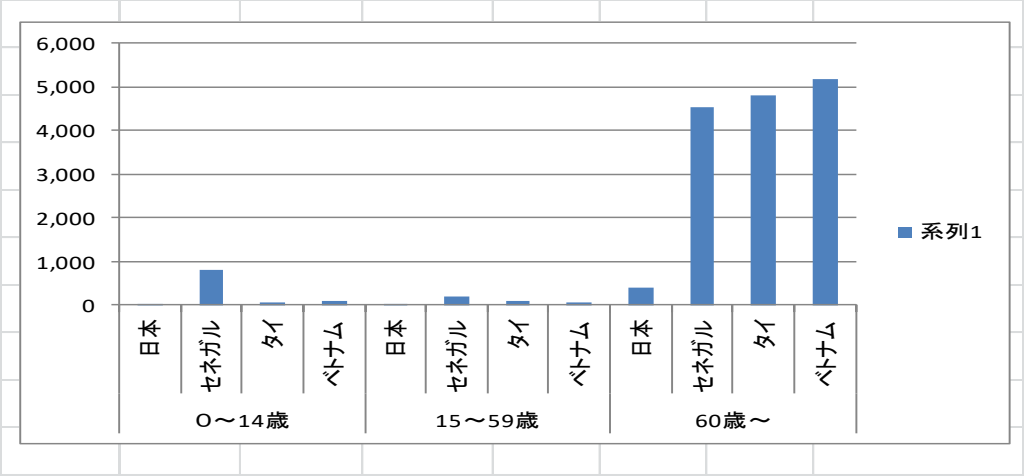
図―５　対象国別、年齢層別全疾患死亡者数(10 万人当たり)　　データ出典:WHO 統計



上図－５は対象４か国における全疾患による（10 万人当たり）死亡者数であり、対疾患抵抗力の低下する高齢者ほど多くなるが、セネガルでは幼児期における死亡者数も他の国に比べて多いことが分かる。

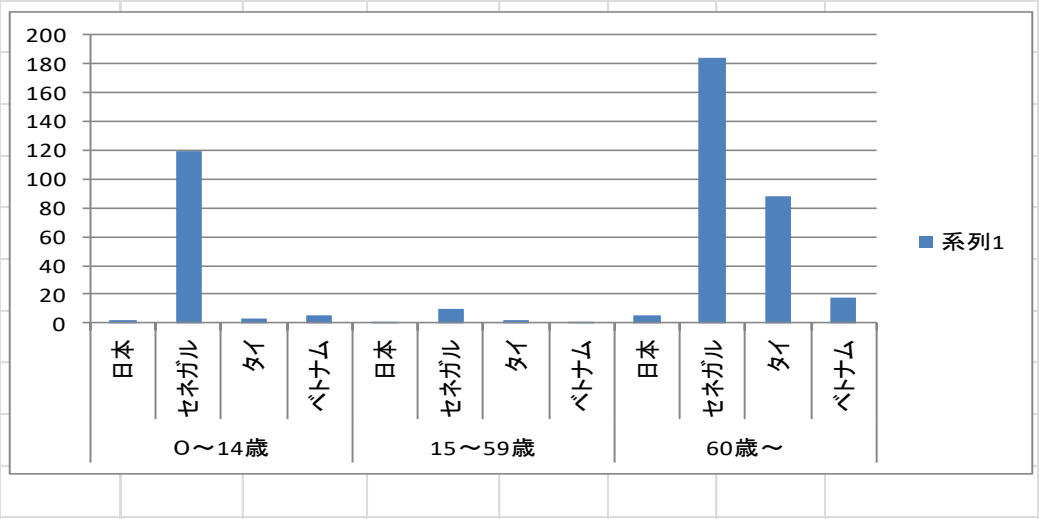
下図－６は対象４か国における感染症による(10 万人当たり)死亡者数であるが、上図－５と比べると、日本を除き全疾患に占める感染症による死亡者数が非常に多いことが分かる、一方日本では高齢者の死亡原因は感染症以外の疾病（心疾患、がん疾患等）であることが多いことを物語っている。

図―６　対象国別、年齢層別感染症による死亡者数(10 万人当たり)　データ出典:WHO 統計



下図―７は対象 4 か国における下痢性疾患による死亡者数で、セネガルにおける下痢性疾患による死亡者数が幼児期および高齢者で非常に高く、東南アジアでもタイでは高齢者の下痢性疾患による死亡が多い。これに対しベトナムでは高齢者の下痢性疾患死亡者数が比較的少なく、下痢性疾患以外の感染症（肺結核等）による死亡者数が多いことを物語る。

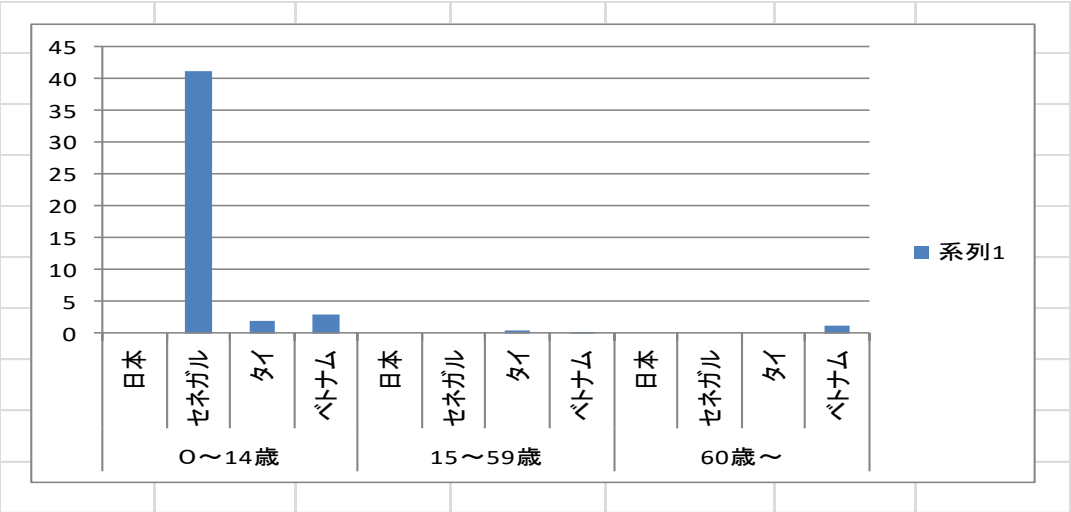
図―７　国別、年齢層別下痢性疾患による死亡者数（10 万人当たり）



データ出典：WHO 統計

下図―８は小児性疾患（はしかなど）による死亡者数だが、数値的には決して多くはないがセネガルにおいては依然として死亡数が多いことが分かる。

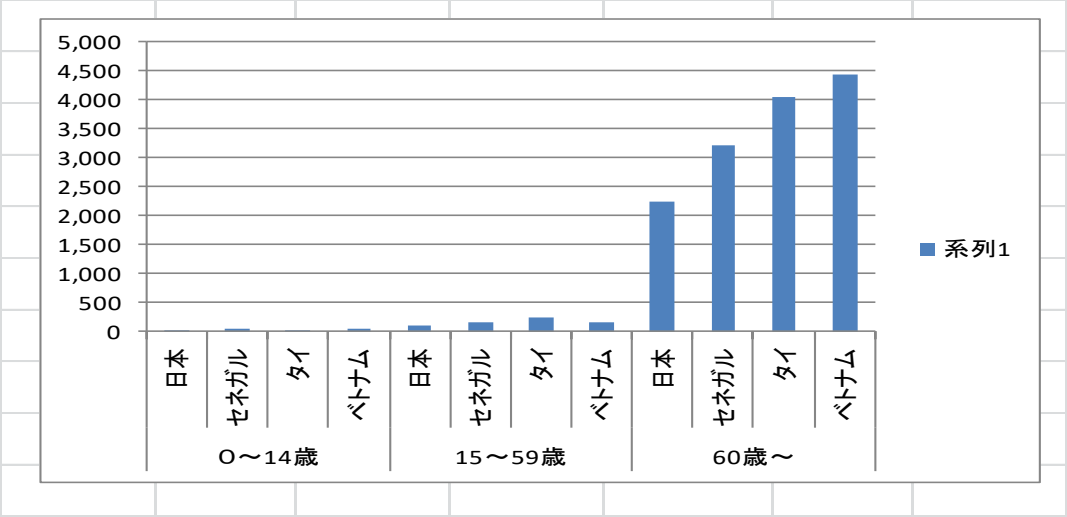
図―８　小児性疾患死亡者数（10 万人当たり）



データ出典：WHO 統計

下図―９は非感染性疾患による死亡者数だが、当然のことながら何れの国でも高齢者の死因は非感染性の老人病（脳疾患、心疾患、老衰等）によるものが多い。

図―９　非感染性疾患による死亡者数



データ出典：WHO 統計

以上、対象４か国における年齢層別疾患と死亡者数を概観した場合、「手洗い」により一定の感染防御が出来ると思われる下痢性疾患やその他の感染症は、肉体的に抵抗力の強い 15～59 歳の層では一般的に疾病罹患率が低く、幼児期および高齢者層での罹患率が高くなる。特に、０～5 歳代の幼児期での罹患は、外部環境においてキャリアー（保菌者）との接触度の高い就学児童や成人及び高齢者が感染源（伝播者）となる場合が多いと想定され、乳幼児の感染防御と幼児死亡率の減少を実現するためにも、家族単位で就学児童、成人、高齢者への手洗い指導を徹底することも有効な防御手段になるのではないかと考察される。

APHW　第十回「えのちから　世界子供絵画展」入選作品

III. アンケート調査の方法と結果

１．アンケート調査の方法

（1）アンケート調査票

今回アンケート調査に用いた質問票は以下の通りである。

1. あなたは良く手を洗いますか？
　・良く洗う　・洗う　・たまに洗う　・洗わない
2. 次の時に手を洗いますか？

2-1　朝起きた時	・よく洗う	・たまに洗う	・洗わない
2-2　ご飯を食べる前	・よく洗う	・たまに洗う	・洗わない
2-3　トイレの後	・よく洗う	・たまに洗う	・洗わない
2-4　お菓子を食べる前	・よく洗う	・たまに洗う	・洗わない
2-5　外から帰ったとき	・よく洗う	・たまに洗う	・洗わない
2-6　食事の手伝いの前	・よく洗う	・たまに洗う	・洗わない
2-7　動物を触った後	・よく洗う	・たまに洗う	・洗わない
2-8　寝る前	・よく洗う	・たまに洗う	・洗わない

3. 手を洗うときに石けんを使いますか？
　・いつも使う　・よく使う　・時々使う　・使わない
4. 手洗いするときに洗うところは？（複数回答可）
　・手のひら　・手の甲　・指の間　・爪の先　・親指　・手首
5. 水できちんとすすぎますか？
　・何時でもきちんとすすぐ　・時々きちんとすすぐ　・きちんとすすがない
6. 手を洗った後、拭きますか？（複数回答可）
　・タオルやハンカチ　・洋服で拭く　・髪の毛で拭く　・そのまま乾かす
　・乾燥機　・ペーパータオル　・その他
7. お腹をこわしたり、病気にならないために手洗いは必要だと思いますか？
　・はい　・いいえ

（以下追加質問項目）

8. 一日に何回ぐらい手を洗いますか？
　・13 回以上　・８～12 回　・４～7 回　・3 回以下
9. どのくらいの時間洗いますか？
　・20 秒以上　・10～19 秒　・５～9 秒　・５秒以下　・３秒以下
10. 石けんを使っているとき水は止めますか？
　・はい　・いいえ

（2）アンケート調査対象国・地域と集票数

手を洗おう会の活動拠点のあるセネガル、タイ、ベトナム及び日本の各地域で、夫々の国の現地協力者及び当会の国内地域会員有志の方々のご協力を得て、アンケート調査票の記入・収集をおこなった結果は以下の通りである。

・日本	東京地区（東京都、神奈川県、千葉県）	419
	北海道（北見網走地区）	201
	東北地区（宮城県）	185
	中部地区（愛知県）	38
	近畿地区（兵庫県）	21
	九州地区（福岡県）	39
	その他国内地域	8
・セネガル	（ダカール首都圏）	30
・タイ	（バンコック首都圏）	252
・ベトナム	（ハノイ首都圏）	382
	合計	1,575

回収票の内、年齢不記載の票を除いた回答者数は 1569 票である。

図―1-1　国別年齢層別集票数

年齢層	日本	セネガル	タイ	ベトナム	合計
1～5	106	0	1	0	107
6～10	387	9	245	256	897
11～15	67	21	6	46	140
16～19	22	0	0	0	22
20～59	186	0	0	80	266
60～	137	0	0	0	137
小計	905	30	252	382	1,569
無効票	6	0	0	0	6
総集票数	911	30	252	382	1,575

（3）アンケート票の有効回答率

総票数 1575 票の内、回答漏れ等があり、完全な回答は 1441 票（91.5%）であり、特に外国での集票の完全回答率がベトナム（100%）、セネガル（96.7%）、タイ（94.8%）と日本に比べ高率であった。反省としては、調査票記入の説明の徹底と回収時のチェックを十分行う必要があったと考える。

尚、データの使用方法としては、各質問項目毎に有効回答数に対する回答数を比率で算出し、欠陥票も項目ごとに活用する方法を採用した。また、回答は無記名とし特定の個人情報は保護されている。

（4）アンケート質問票の問題点

今回のアンケート調査の基本的課題として、調査期間が約 6 か月に渉り、その間にアンケート票の追加改訂をしたため、1~7 問までの調査票と 1~10 問までの 2 種類の調査票が用いられた。8~10 問については、下記の通り日本国内およびベトナムの一部についてのみ配布・回収された。但し、1~10 問回答票の 1~7 問部分については全票共通である。

	日本	セネガル	タイ	ベトナム	合計
1~7 問回答	0	30	252	101	383
1~10 問回答	905	0	0	281	1,186

また、今後の課題としては回答者の所属国の保健衛生事情、経済レベル、文化・社会的背景、生活習慣等も考慮し、回答者が迷いなく回答出来て、有効回答率が向上し、集票の解析により有為な結論が導けるようなアンケート票の設計と集票時の管理指導を慎重に行いたいと考える。

２．調査票解析の考え方と方法

（1）質問項目の重要性評価

質問票の構成項目の内、感染症防止に特に重要と考えられる項目と、比較的重要度の低い項目がある。回答結果の評価を“感染症防止に有効”な視点で行う事を一義的に考え、定性的重要度のランク分けを以下の通り設定した。但し、質問 10 の如く、国情によっては“水の大切さ”を認識・指導することもまた重要であり、今後の手洗い指導の中で対応法を考えて行きたい。

重要度ランク　　アンケート項目

重要度 A ランク：2-2、2-3、2-4、2-5、2-6、3、7

重要度 B ランク：1、2-7、4、5

重要度 C ランク：2-1、2-8、6、8、9

重要度 D ランク：10

（2）アンケート集票データの解析方法

調査票の質問項目不均一性（7 項目と 10 項目）、年齢層別集票のばらつき、国別集票数の違い等の認識に立ち、妥当な比較が可能と思われる国別、年齢層別、性別の比較検討テーマを以下の通り設定とした。

① WHO 統計に対する比較評価を念頭に、年齢層別全数比較を行う。

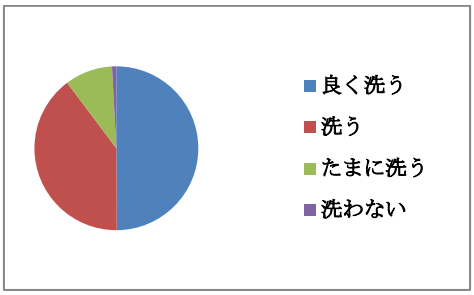
② 国別比較は、各国の幼稚園・小学校単位で調査を行ったことから、比較的回答者数が多く、且つ当会の活動対象年齢層に整合することから、6 歳～15 歳に重点を置いた比較分析を行う。

③ 各国の集票は、集票数、年齢層、設問数等にバラツキがあるため、母数も多く年齢層・性別の配分も比較的分散している日本国内の回答票を対象に分析を行う。

３．アンケート回答結果

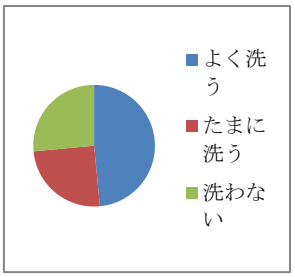
（１）４か国全回答－1575 票

質問１　あなたは良く手を洗いますか？

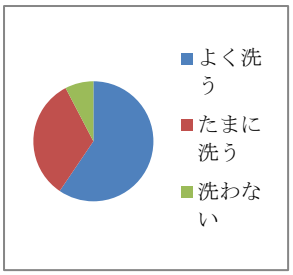


質問２　次の時に手を洗いますか？

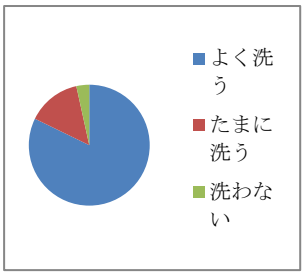
2-1　朝起きた時



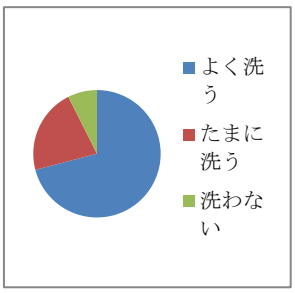
2-2 ご飯を食べるとき



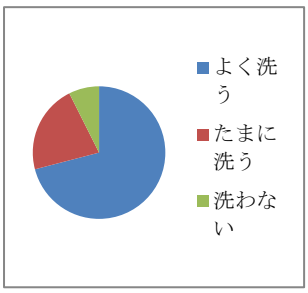
2-3　トイレの後



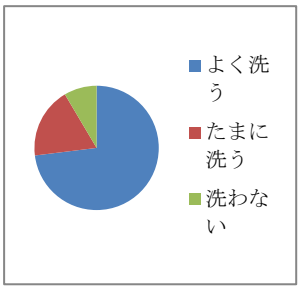
2-4　お菓子を食べるとき



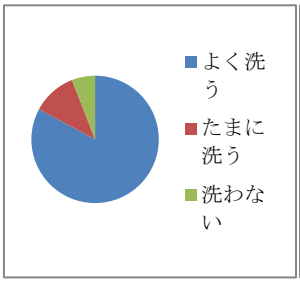
2-5　外から帰ったとき



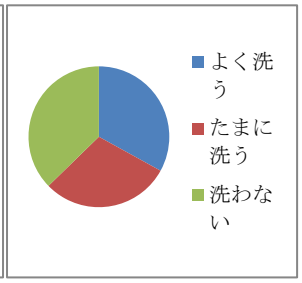
2-6　食事の手伝いの前



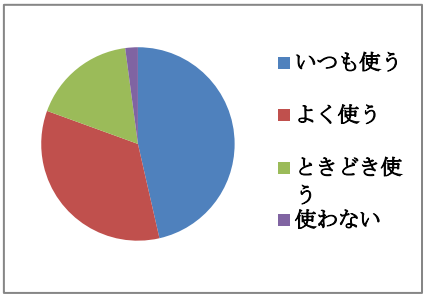
2-7　動物を触った後



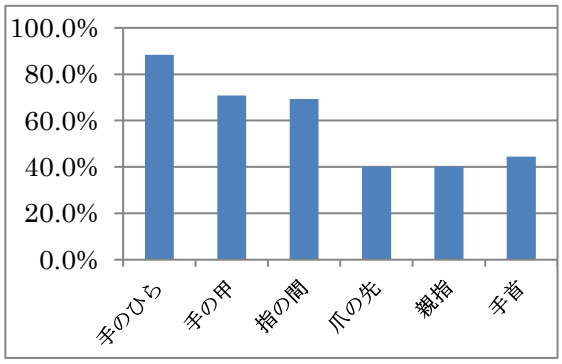
2-8　寝る前



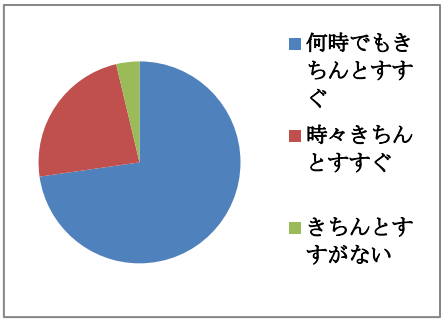
質問３　手を洗うとき石けんを使いますか？



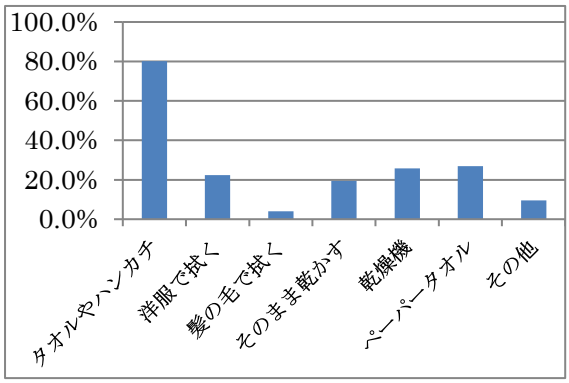
質問４　手洗いする時に洗うところは？



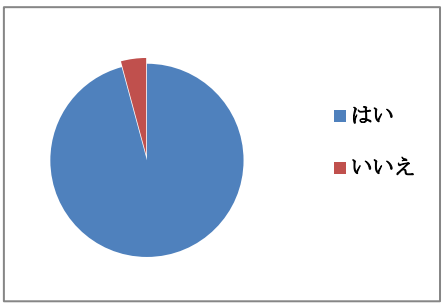
質問５　水できちんとすすぎますか？



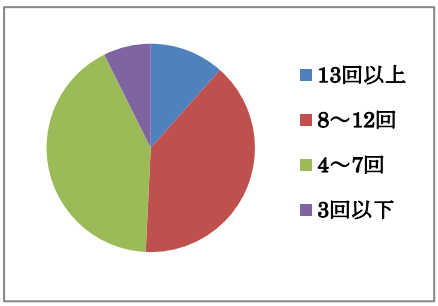
質問６　手を洗った後、拭きますか？



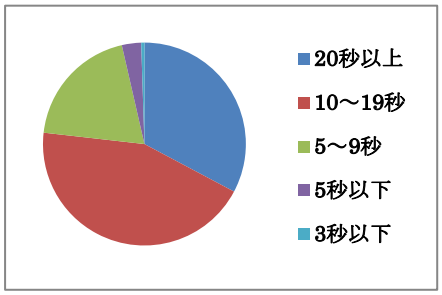
質問７　お腹をこわしたり、
病気にならないために
手洗いは必要だと思いますか？



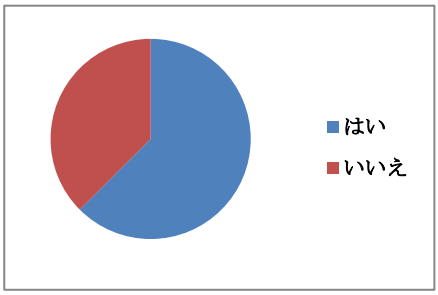
質問８　一日に何回ぐらい手を洗いますか？



質問９　どのくらいの時間
手を洗いますか？



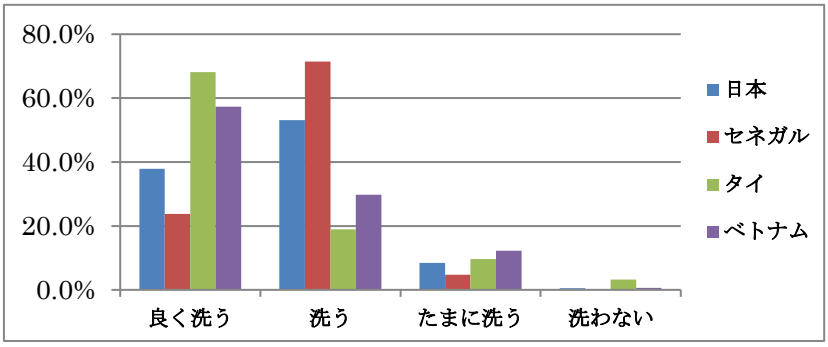
質問 10　石けんを使っているとき
水は止めますか？



（２）４か国別就学児童低・中学年（6～15 歳)比較

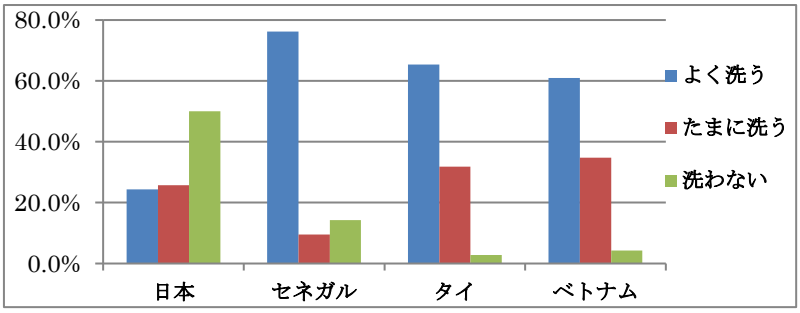
－1037 票

質問１　あなたは良く手を洗いますか？

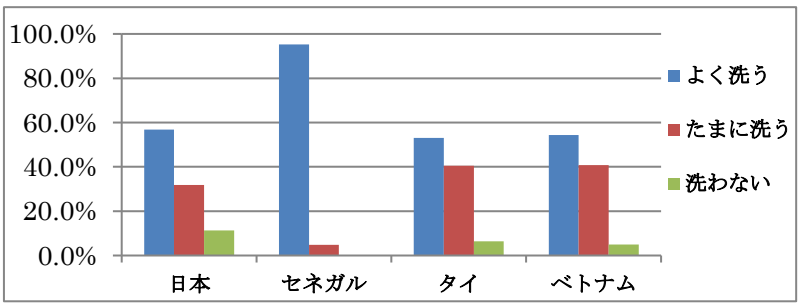


質問２　次の時に手を洗いますか？

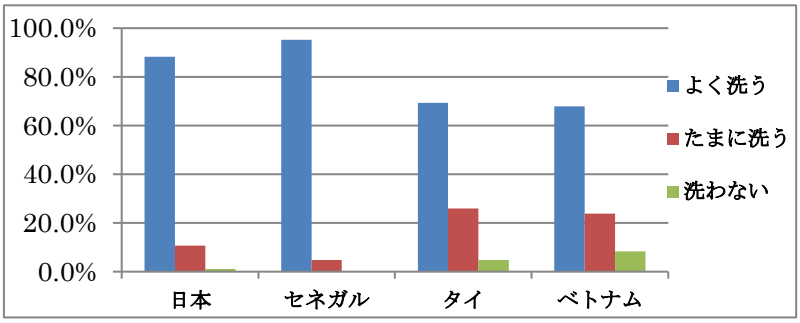
2-1　朝起きた時



2-2　ご飯を食べる前

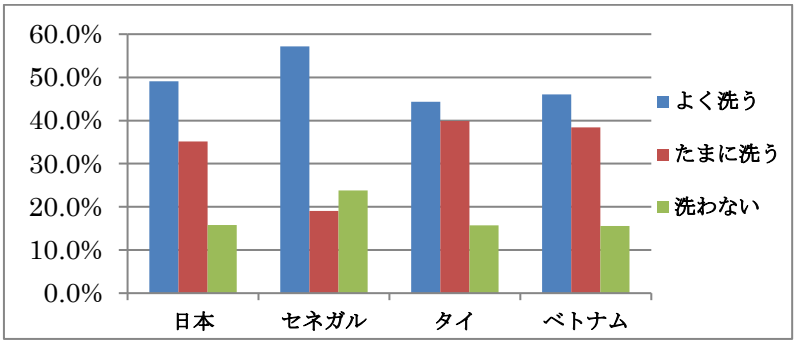


2-3　トイレの後

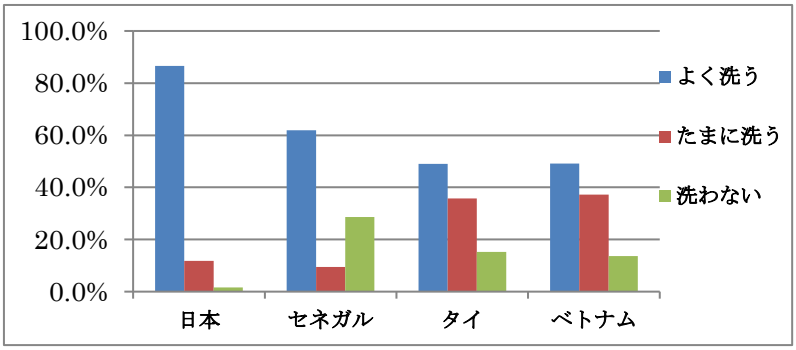


（4 か国別、6～15 歳）

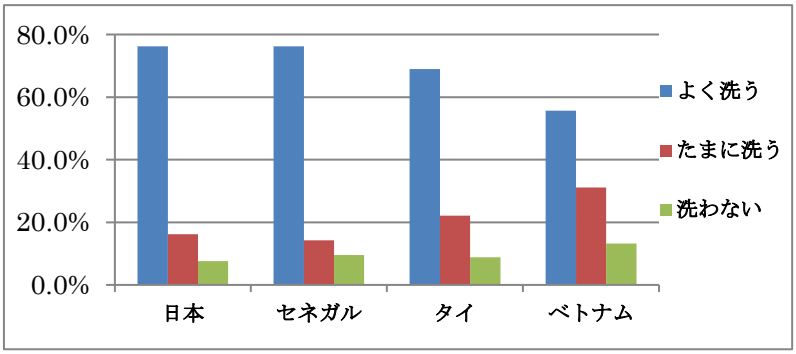
2-4 お菓子を食べる前



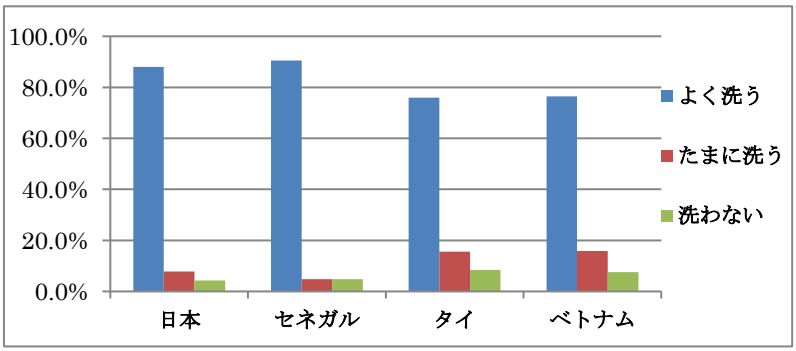
2-5　外から帰ったとき



2-6　食事の手伝いの前

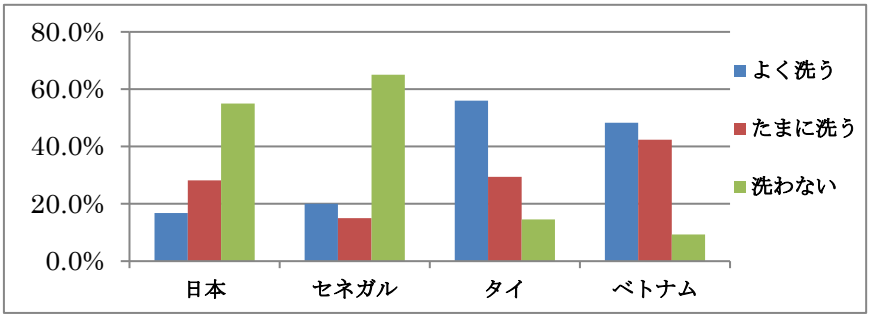


2-7　動物を触った後

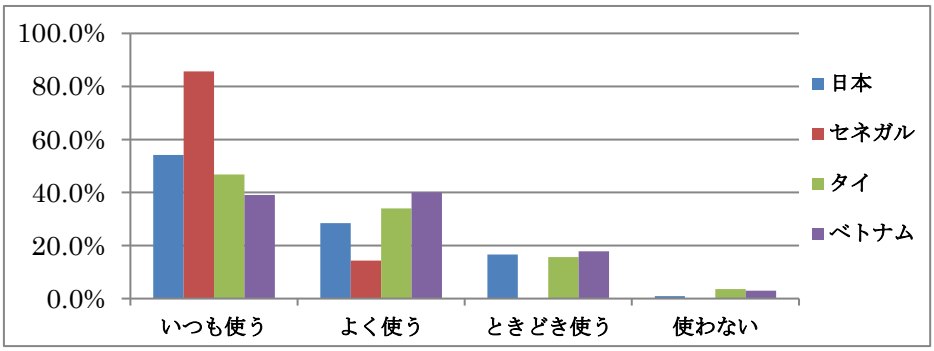


（4 か国別、6～15 歳）

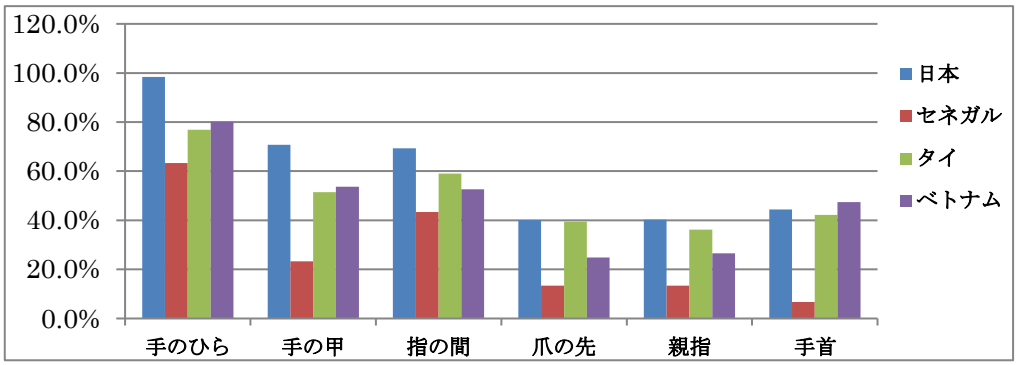
2-8 寝る前



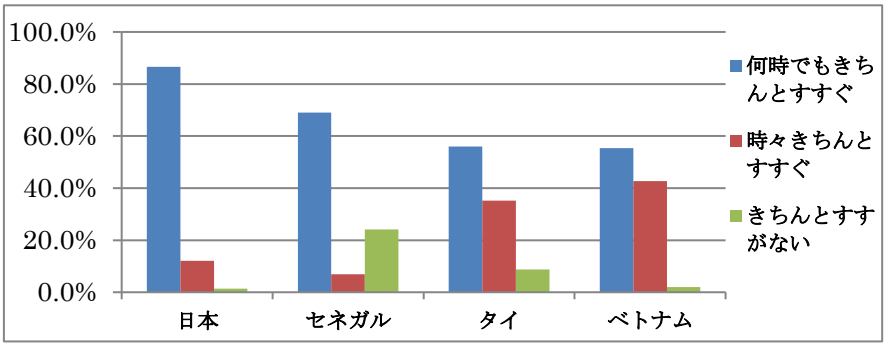
質問３　手を洗うとき石けんを使いますか？



質問４　手洗いするときに洗うところは？

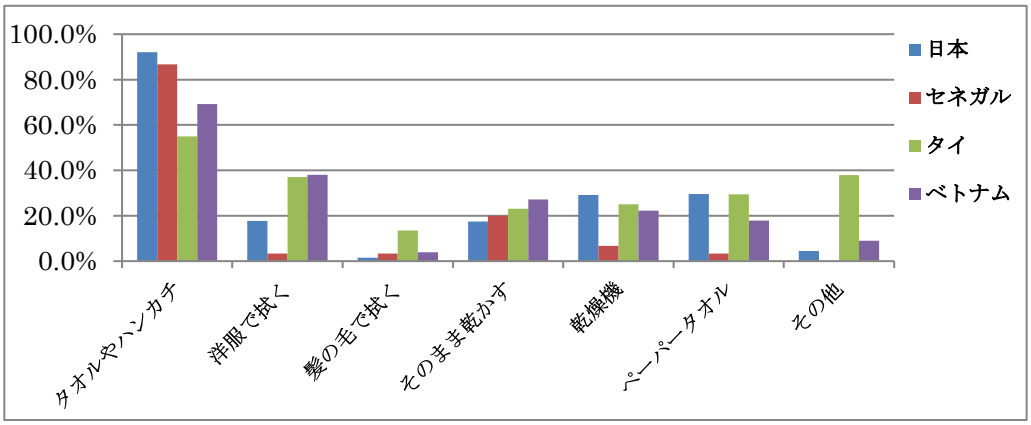


質問５　水できちんとすすぎますか？

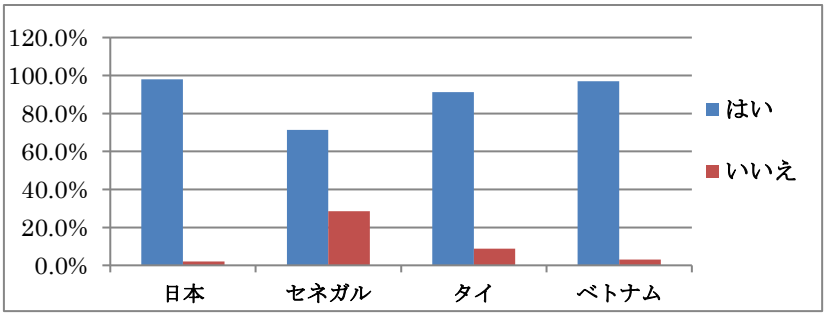


（4 か国別、6～15 歳）

質問６　手を洗った後、拭きますか？



質問７　お腹をこわしたり、病気にならないために手洗いは必要だと思いますか？



注：質問８～10 については日本およびベトナム以外の国には適用されていないため、
比較対象としては採用しない。

（３）日本・性別比較―年齢層別 －883 票

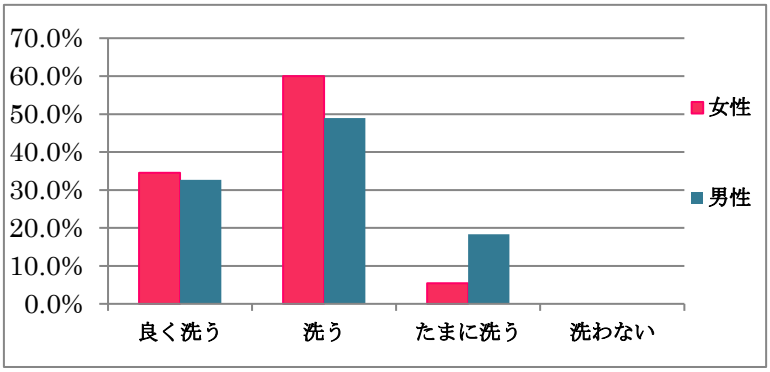
性別区分調査は以下の区分について、日本国内のアンケート票を対象に行った。尚、16 歳～19 歳については集票数が少ない(22 名)ため解析から除外した。日本国内におけるアンケート票回答者の性別区分数は次の通りであった。

	女性	男性	合計
1 ～5 歳	56	50	106
6 ～15 歳	223	231	454
20 歳以上	188	135	323
合計	**467**	**416**	**883**

1）日本・性別比較　1～5 歳－106 票

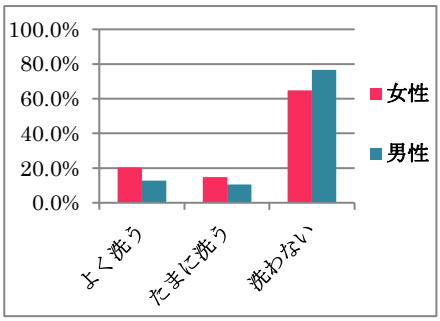
調査の対象は主に幼稚園児で、先生の指導によってアンケート票がまとめられた。集票数は女性 56 票、男性 50 票でほぼ均衡のとれた母数となった。

質問１　あなたは良く手を洗いますか？

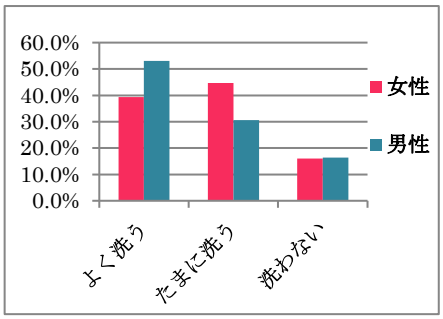


質問２　次の時に手を洗いますか？

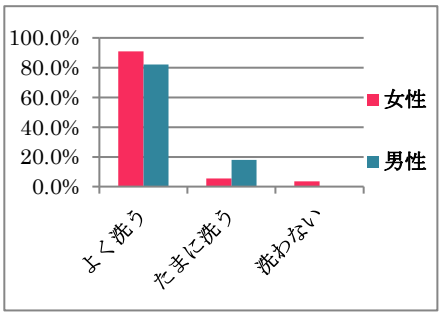
質問　2-1　朝起きた時



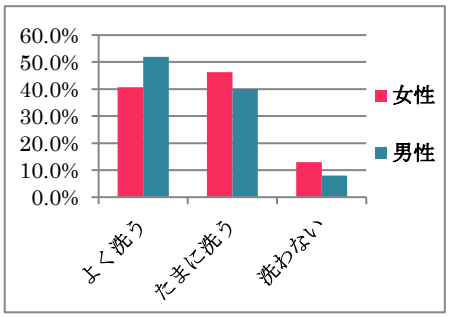
質問　2-2　ご飯を食べる前



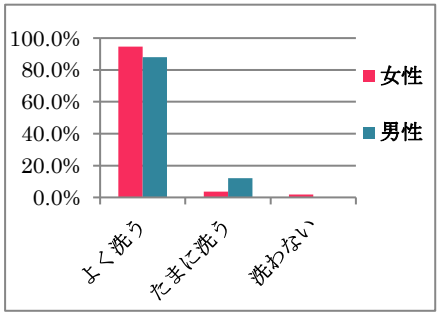
質問　2-3　トイレの後



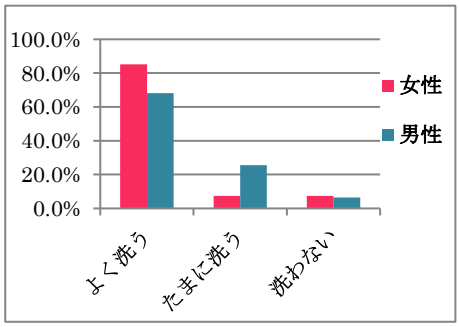
質問　2-4　お菓子を食べる前



質問　2-5　外から帰ったとき

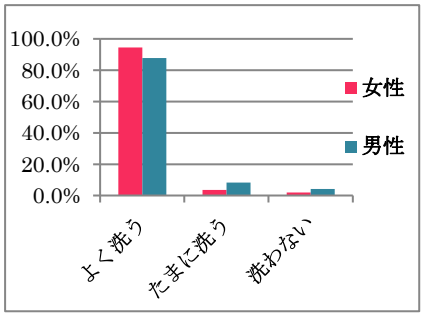


質問　2-6　食事の手伝いの前

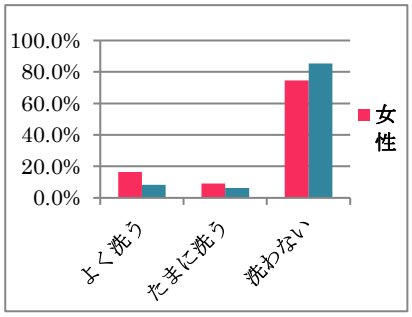


（性別比較－日本、１～５歳）

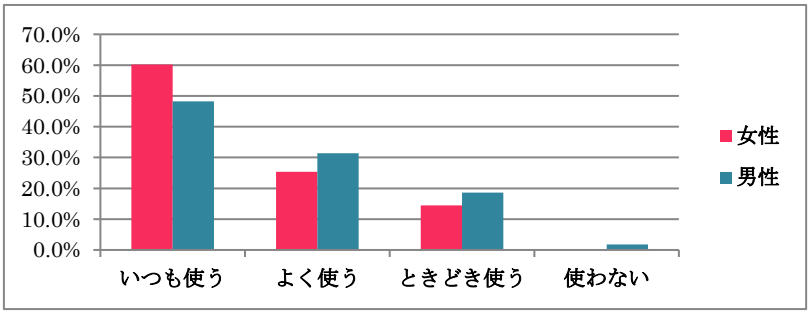
質問　2-7　動物を触った後



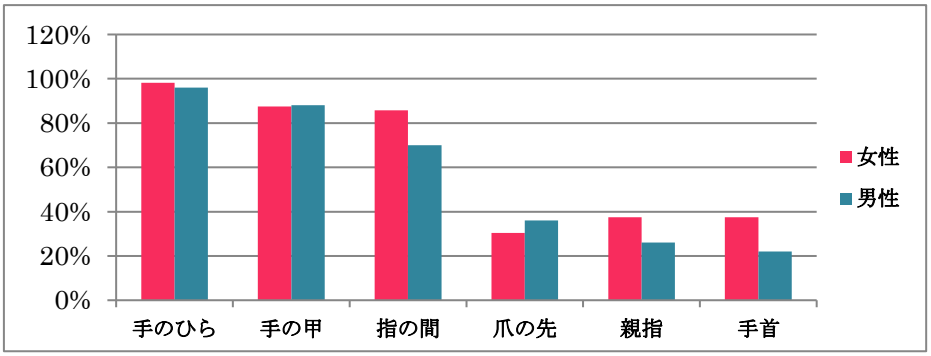
質問　2-8　寝る前



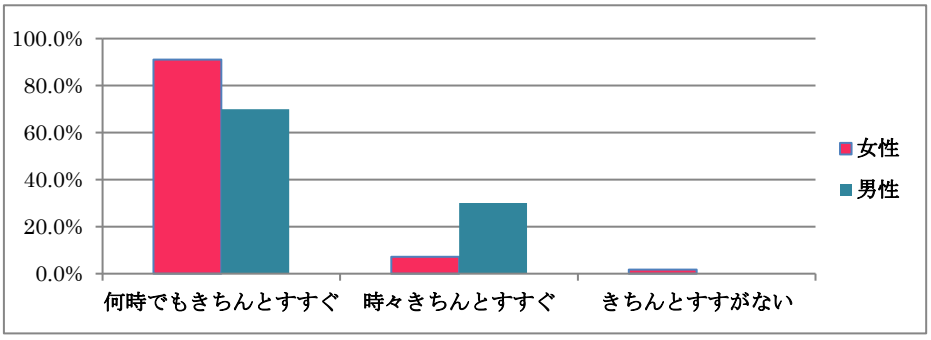
質問　3　手を洗うときに石けんを使いますか？



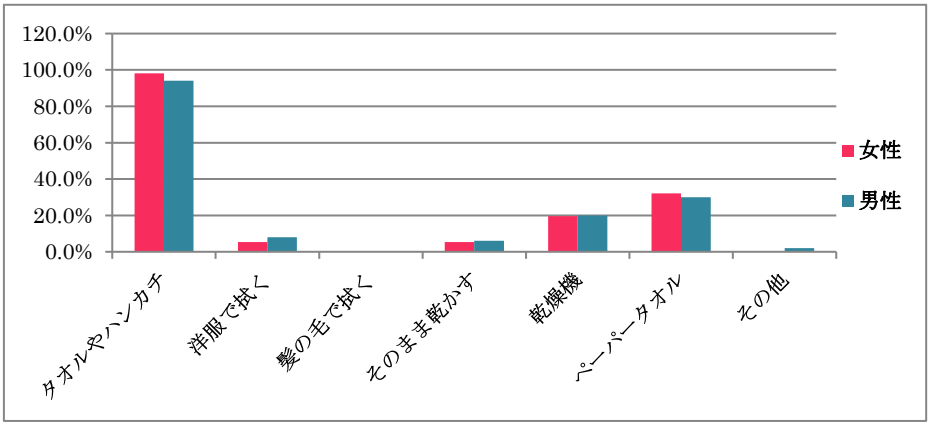
質問 4　手洗いするときに洗うところは？（複数回答可）



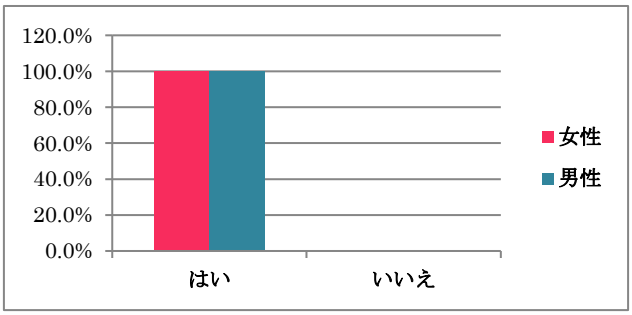
質問　5. 水できちんとすすぎますか？



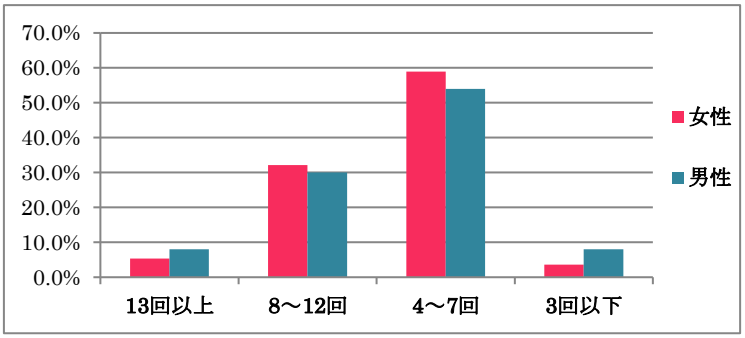
質問 6　手を洗った後、拭きますか？（複数回答可）　（性別比較－日本、1～5 歳）



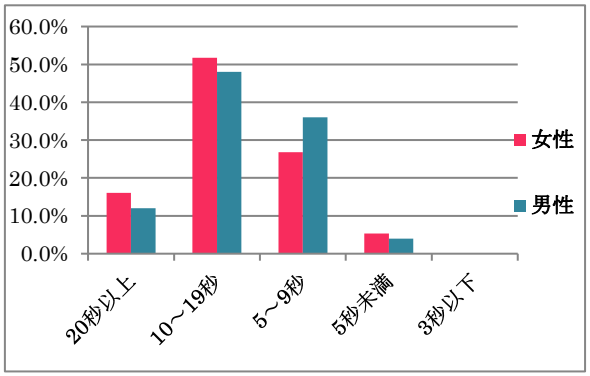
質問 7　お腹をこわしたり、病気にならないために手洗いは必要だと思いますか？



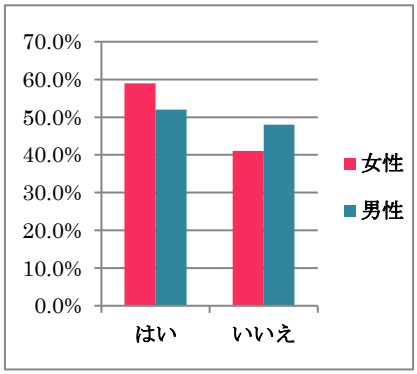
質問 8　一日に何回ぐらい手を洗いますか？



質問 9　どのくらいの時間洗いますか？



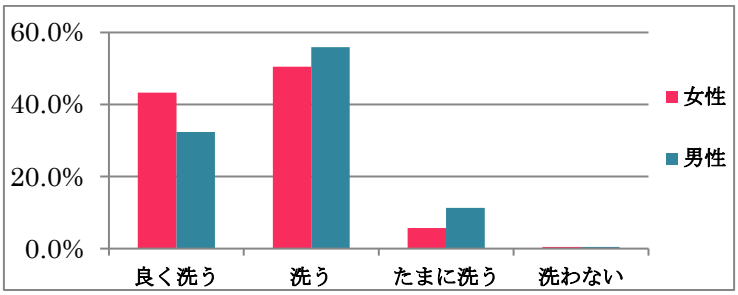
質問 10　石けんを使っているとき水を止めますか？



2）日本・性別比較　6～15 歳－454 票

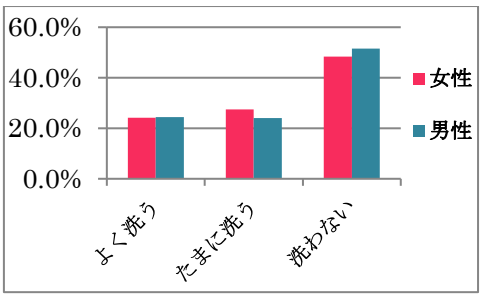
就学児童低学年から中学年レベルまでの義務教育課程の児童を対象に調査を行った。この年齢層については、分析２（国別就学児童低・中学年）において日本以外の 3 か国との国際比較も行っている。ここでは、日本国内の就学児童の手洗いの実態を性別で観察している。尚、調査対象の児童は北海道から九州に渉り、集票数は女性 223 名、男性 231 名でほぼ均衡のとれた比較になっている。

質問 1　あなたは良く手を洗いますか？

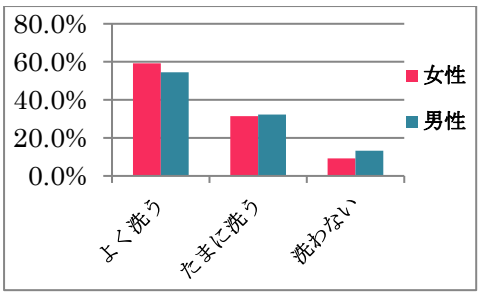


質問 2　次の時に手を洗いますか？

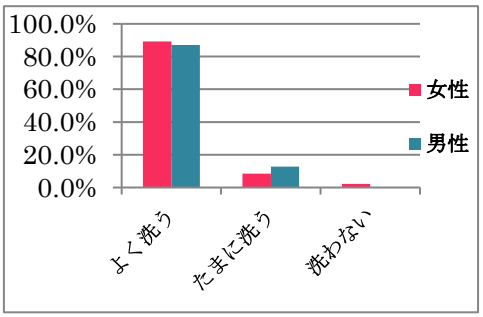
質問　2-1　朝起きた時



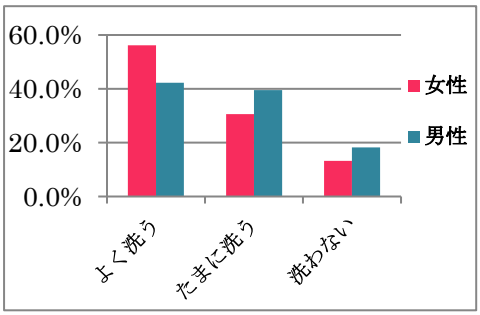
質問　2-2　ご飯を食べる前



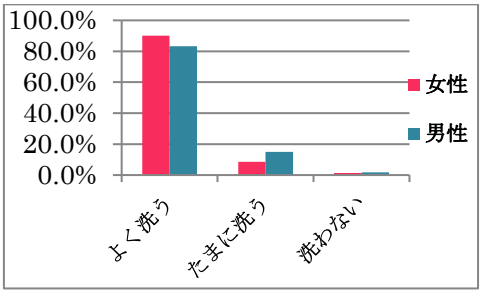
質問　2-3　トイレの後



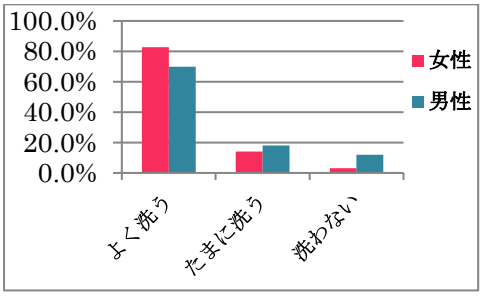
質問　2-4　お菓子を食べる前



質問　2-5　外から帰ったとき質問

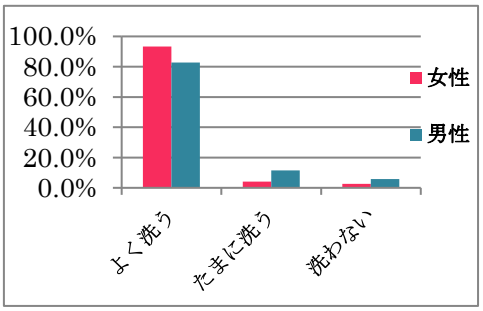


質問 2-6　食事の手伝いの前

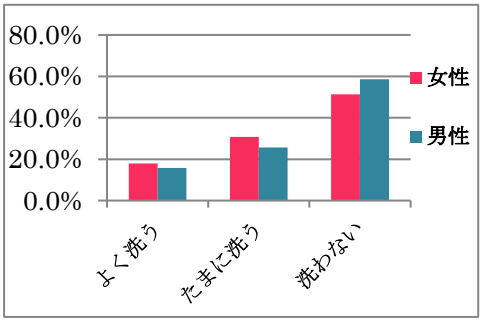


（性別比較－日本、6～15 歳）

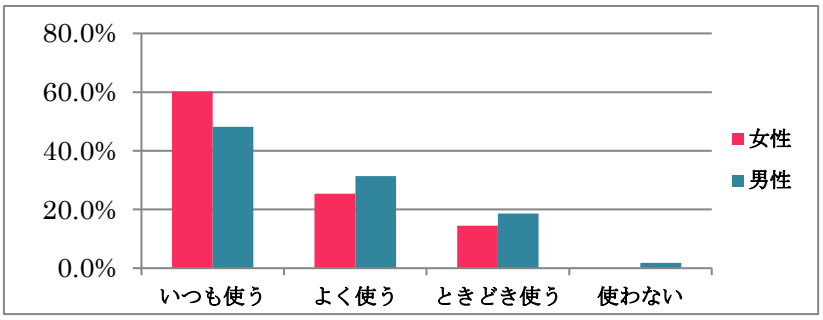
質問　2-7　動物を触った後



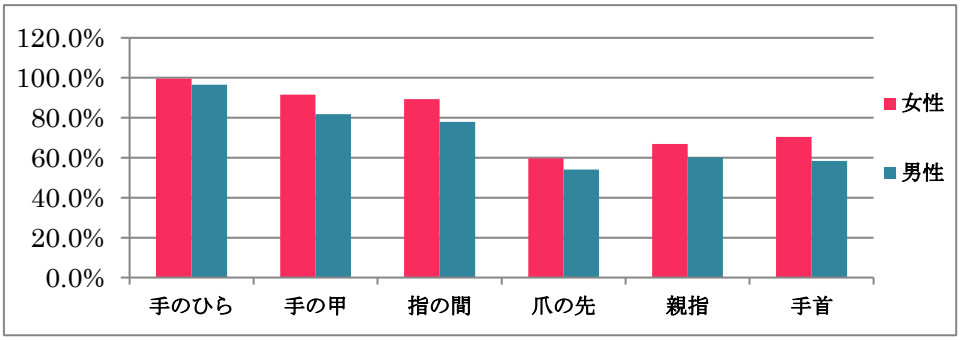
質問　2-8　寝る前



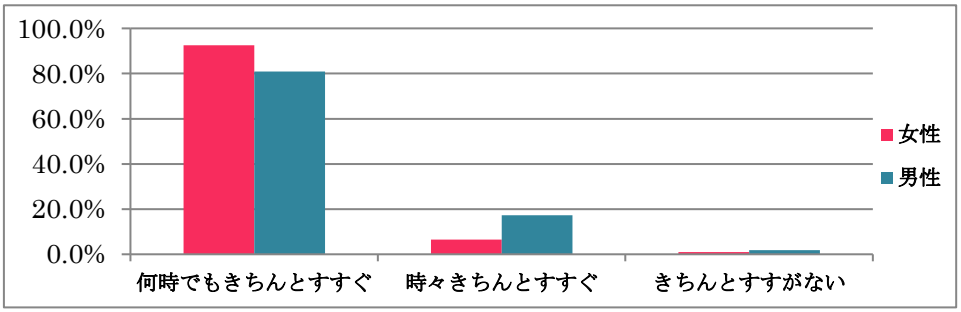
質問 3　手を洗うときに石けんを使いますか？



質問 4　手洗いするときに洗うところは？（複数回答可）

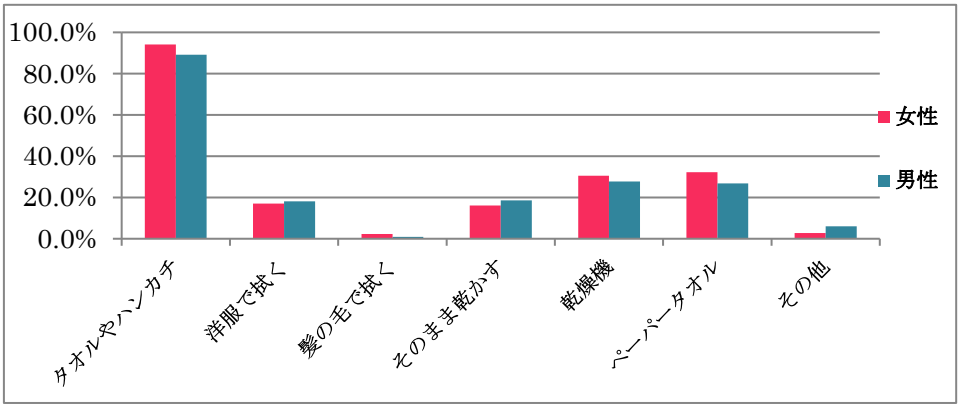


質問 5　水できちんとすすぎますか？

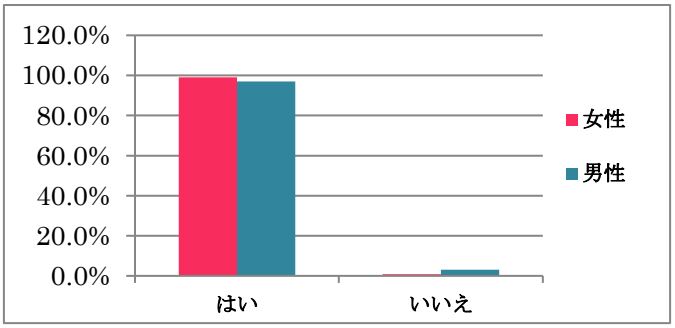


（性別比較－日本、6～15 歳）

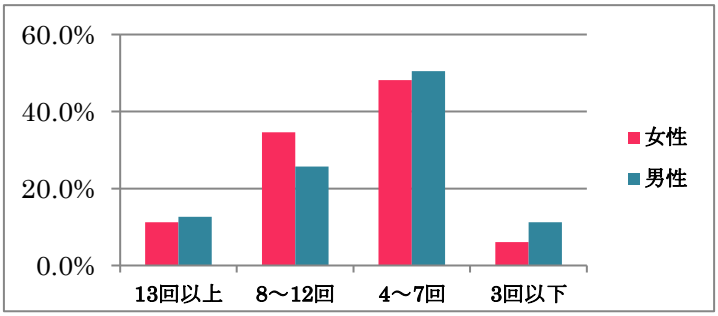
質問 6　手を洗った後、拭きますか？（複数回答可）



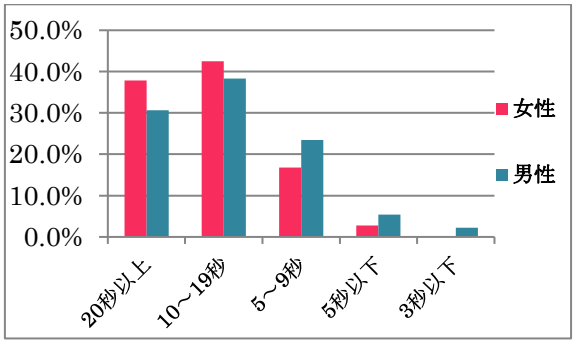
質問 7　お腹をこわしたり、病気にならないために手洗いは必要だと思いますか？



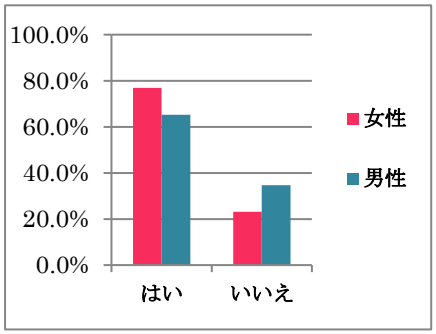
質問 8　一日に何回ぐらい手を洗いますか？



質問 9　どのくらいの時間洗いますか？

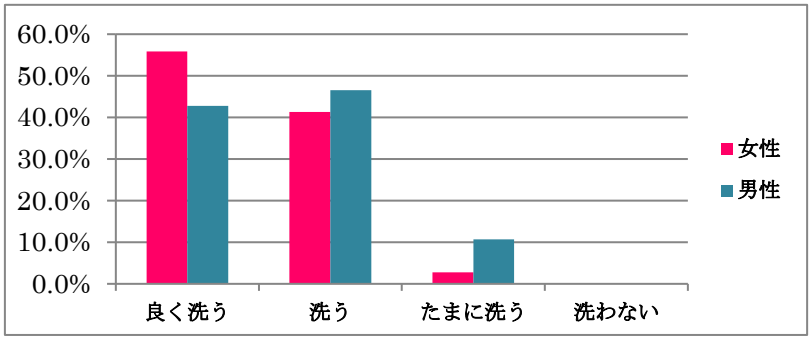


質問 10　石けんを使っているとき水は止めますか？



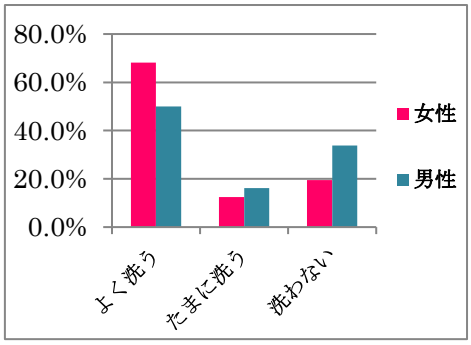
３）日本・性別比較　成人(20 歳以上) －323 票

質問１　あなたは良く手を洗いますか？

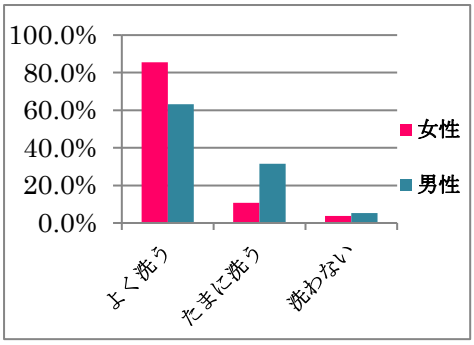


質問２　次の時に手を洗いますか？

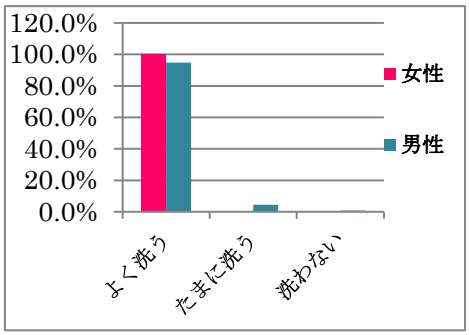
質問　2-1　朝起きた時



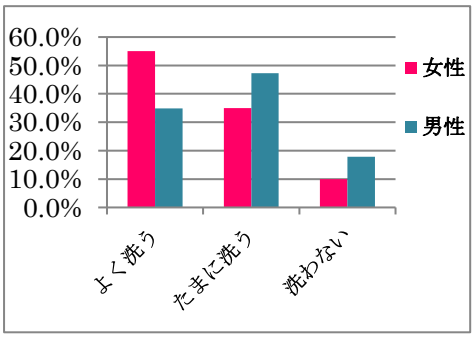
質問　2-2　ご飯を食べる前



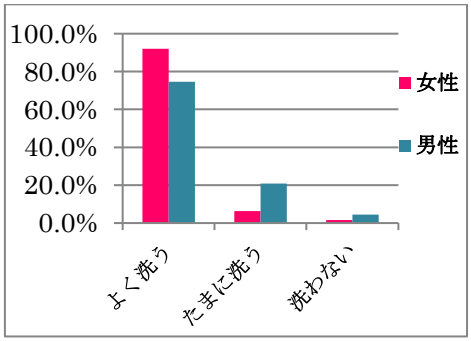
質問　2-3　トイレの後



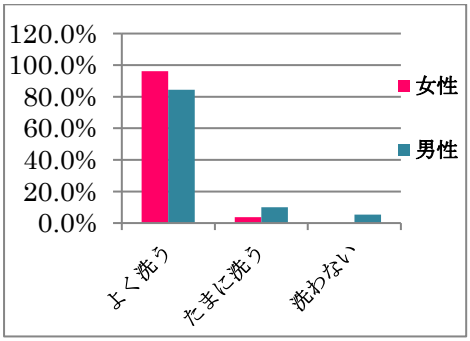
質問　2-4　お菓子を食べる前



質問　2-5　外から帰ったとき

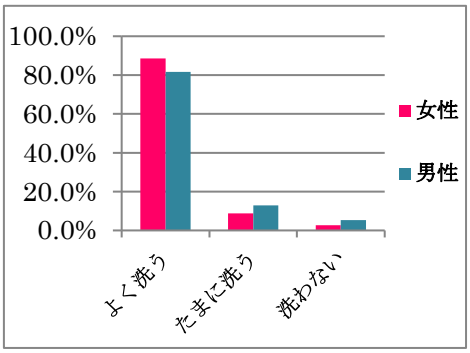


質問　2-6　食事の手伝いの前

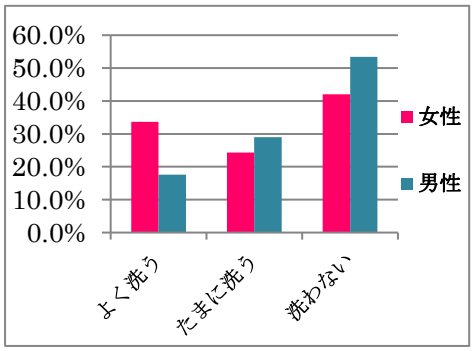


（性別比較－日本、20 歳以上）

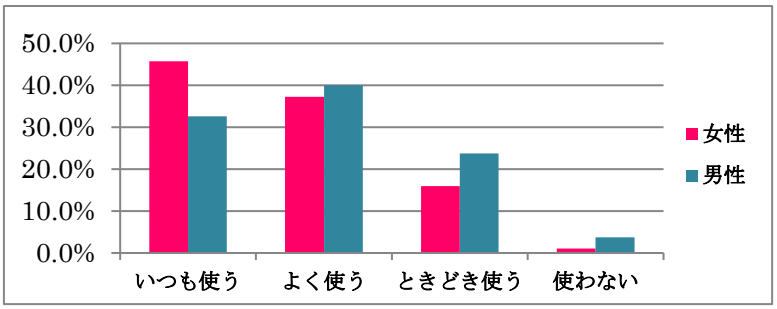
質問　2-7　動物を触った後



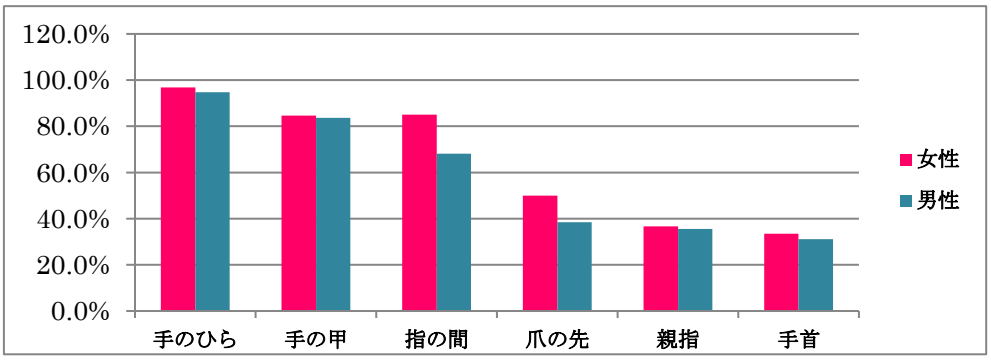
質問　2-8　寝る前



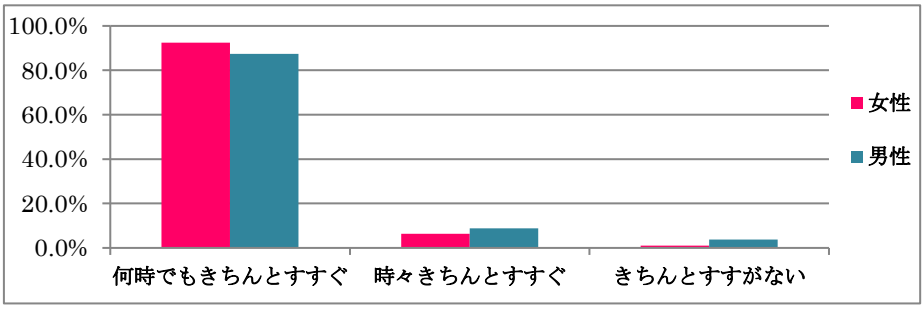
質問 3　手を洗うときに石けんを使いますか？



質問 4　手洗いするときに洗うところは？（複数回答可）

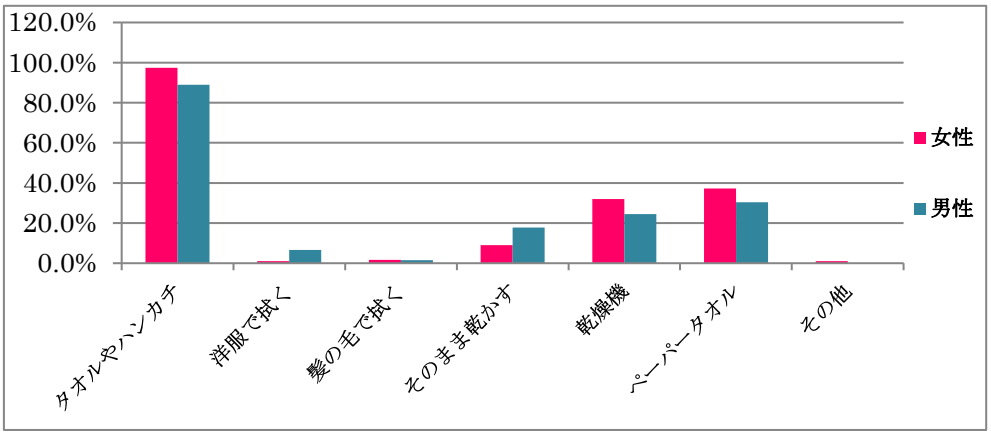


質問 5　水できちんとすすぎますか？

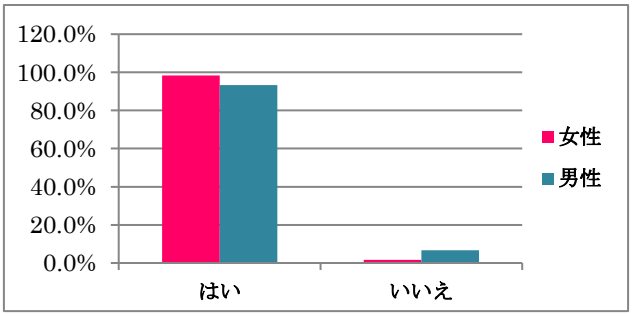


（性別比較－日本、20 歳以上）

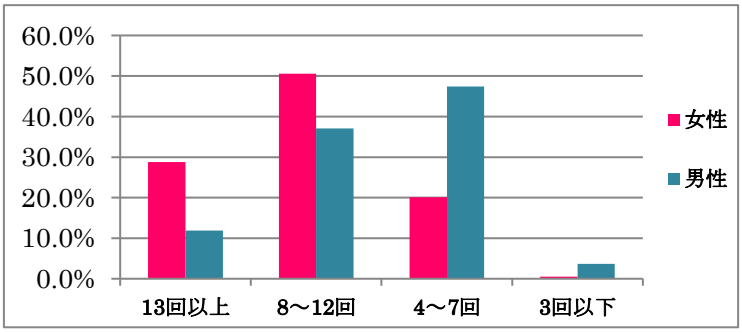
質問 6　手を洗った後、拭きますか？（複数回答可）



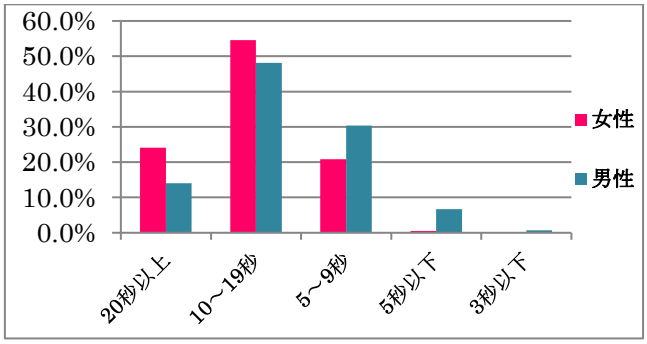
質問 7　お腹をこわしたり、病気にならないために手洗いは必要だと思いますか？



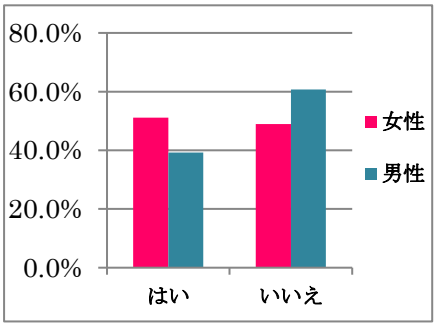
質問 8　一日に何回ぐらい手を洗いますか？



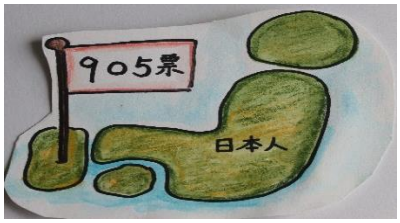
質問 9　どのくらいの時間洗いますか？



質問 10　石けんを使っているとき水は止めますか？

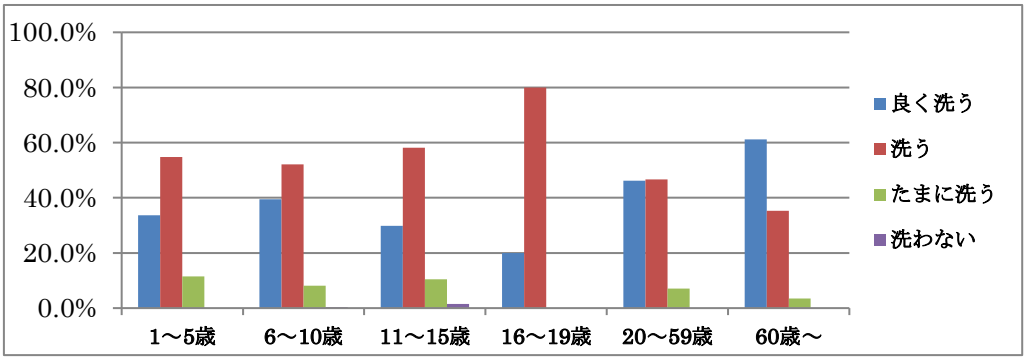


（4）日本・年齢層別比較
－905 票



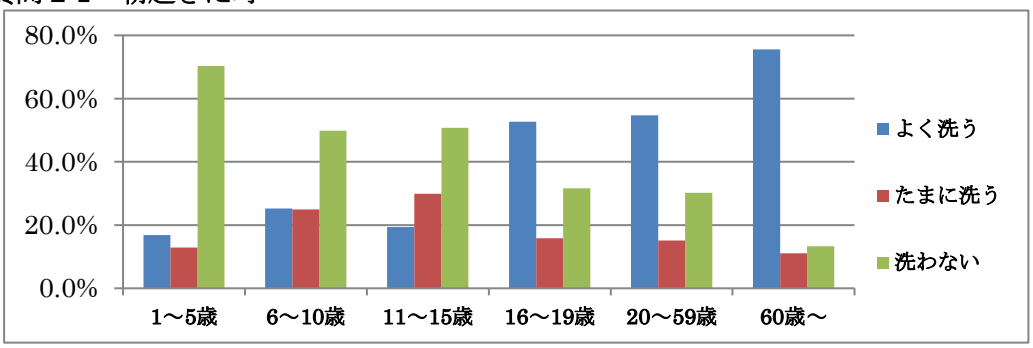
①	幼児	1～5 歳	106	人
②	就学児童低学年	6～10 歳	387	人
③	就学児童中学年	11～15 歳	67	人
④	高学年・未成年	16～19 歳	22	人
⑤	成人	20～59 歳	231	人
⑥	高齢者	60 歳以上	91	人
	合計		**905**	**人**

質問 1　あなたは良く手を洗いますか？

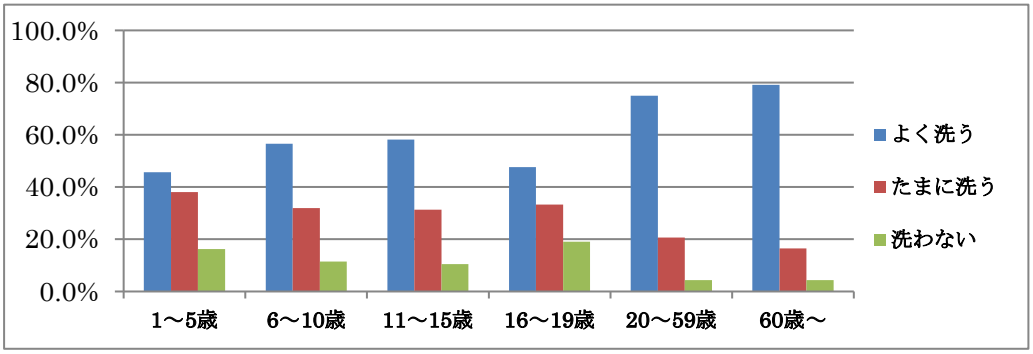


質問 2　次の時に手を洗いますか？

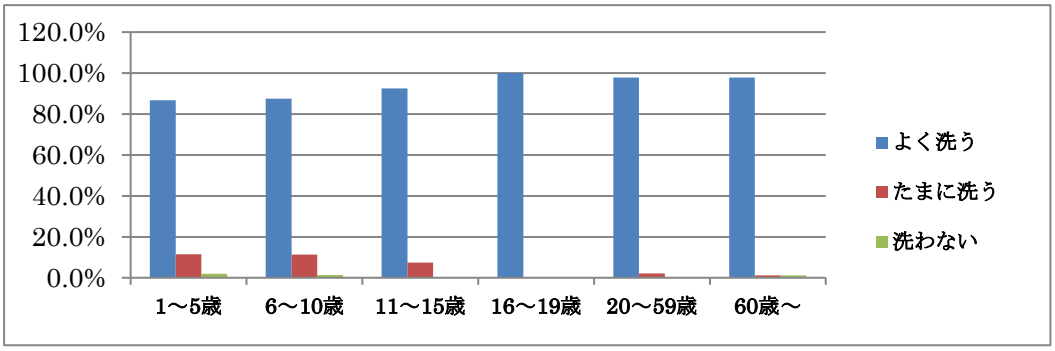
質問 2-1　朝起きた時



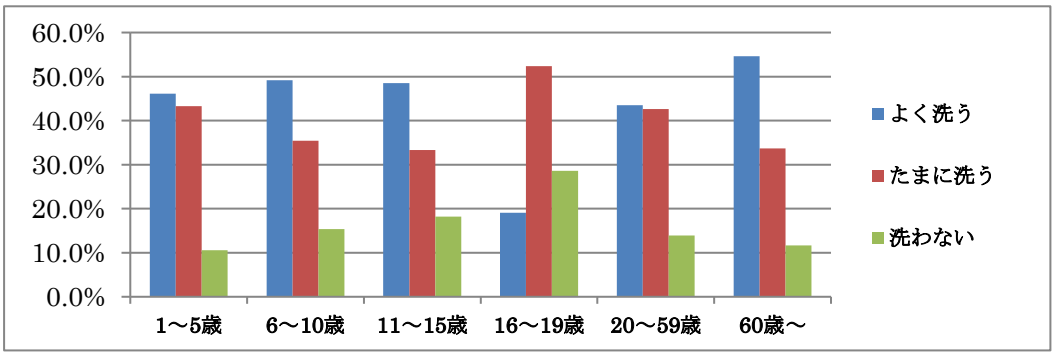
質問　2-2　ご飯を食べる前



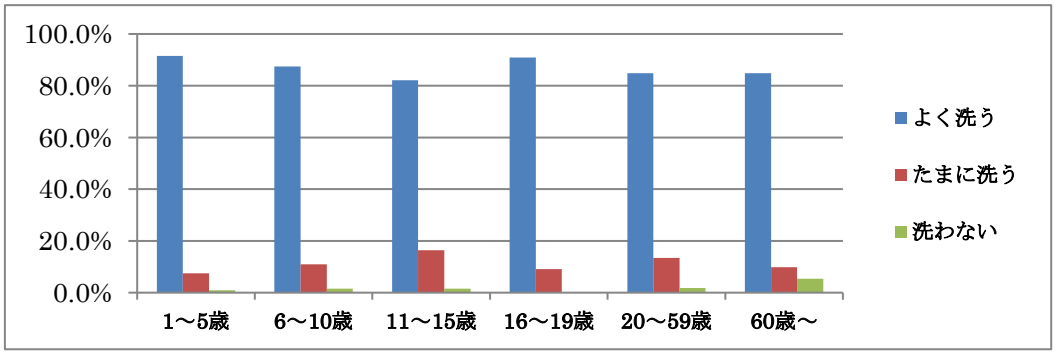
質問　2-3　トイレの後　　（年齢層別比較－日本）



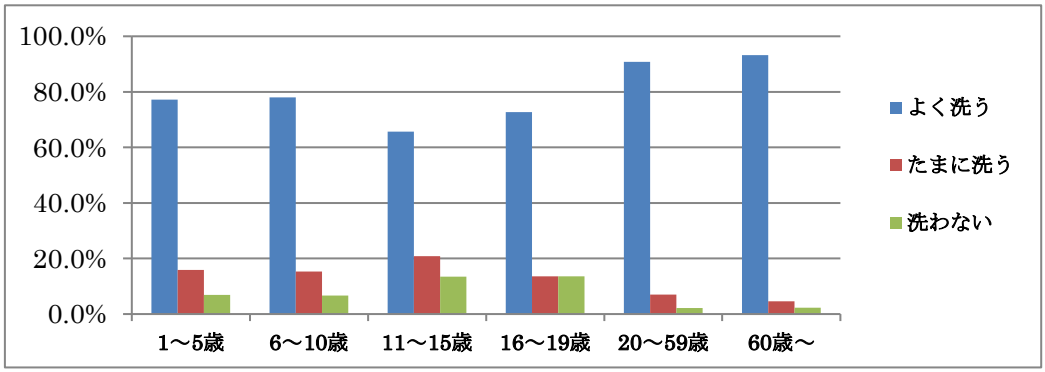
質問　2-4　お菓子を食べる前



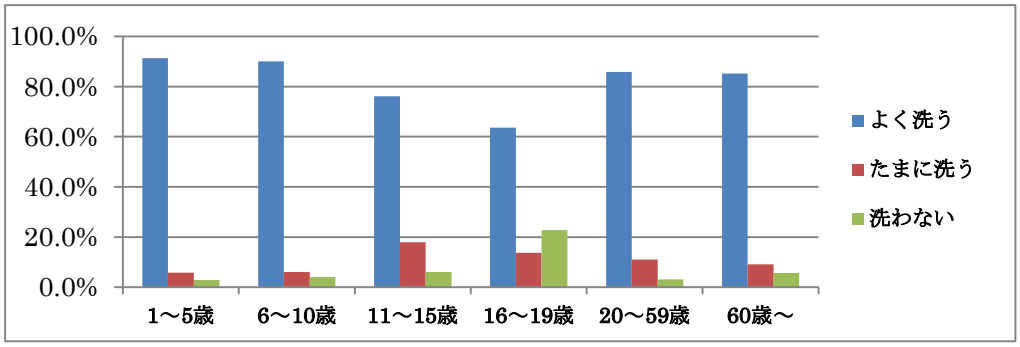
質問　2-5　外から帰ったとき



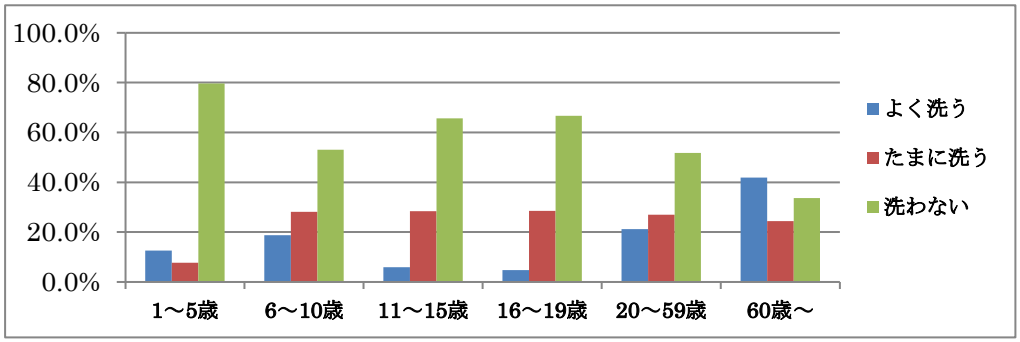
質問　2-6　食事の手伝いの前



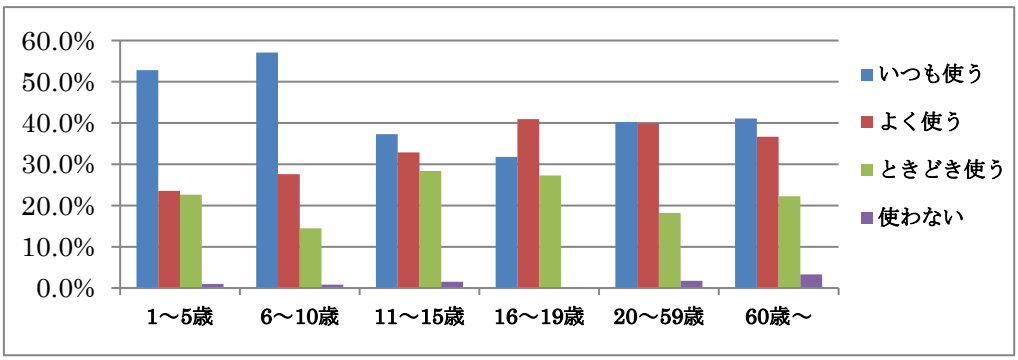
質問　2-7　動物を触った後　　（年齢層別比較－日本）



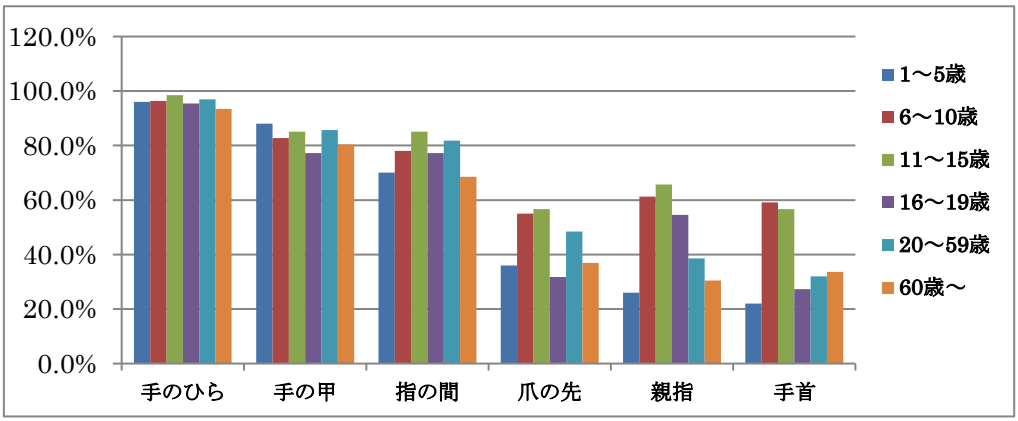
質問　2-8　寝る前



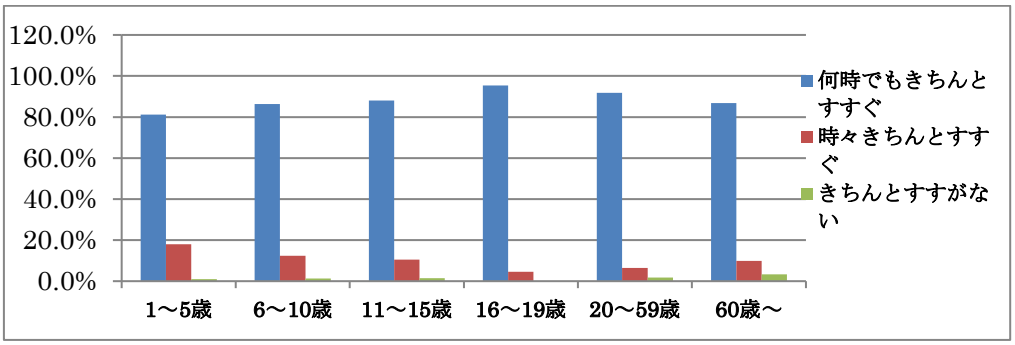
質問 3　手を洗うときに石けんを使いますか？



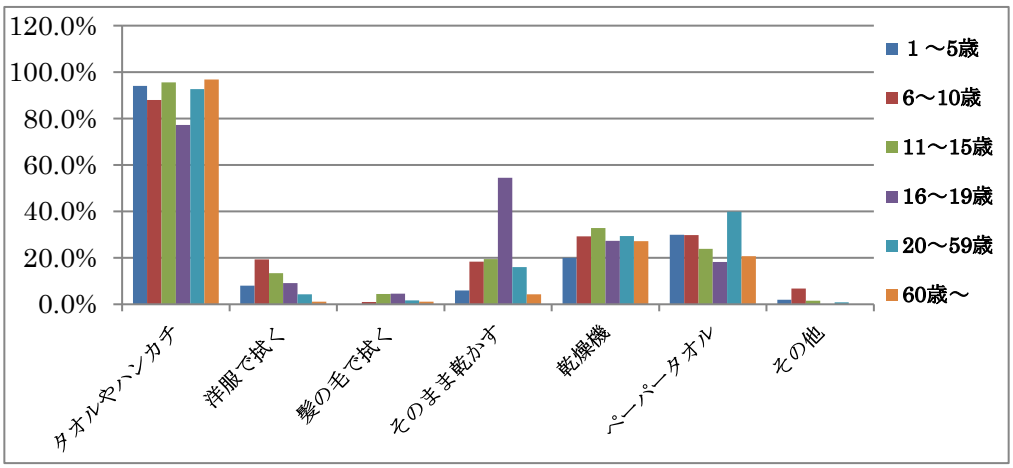
質問 4　手洗いするときに洗うところは？（複数回答可）



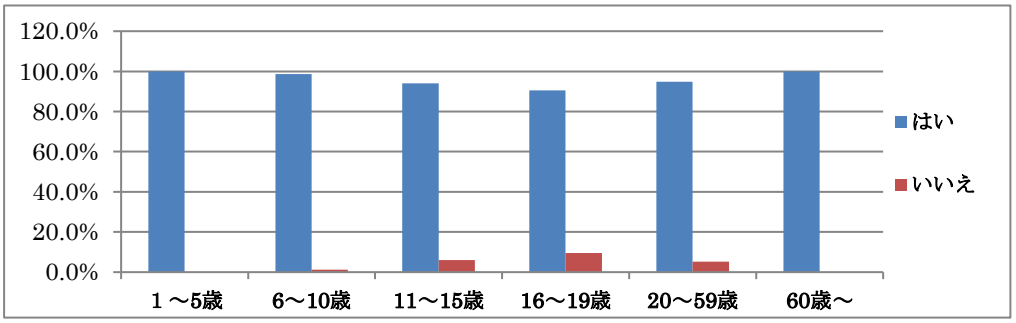
質問５　水できちんとすすぎますか？　（年齢層別比較－日本）



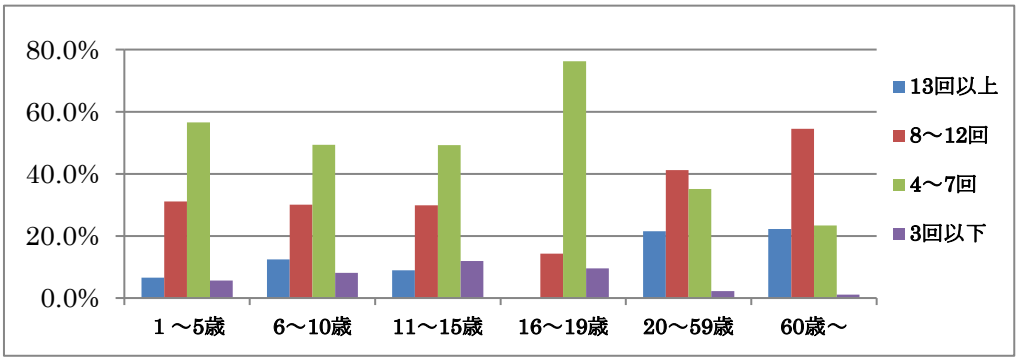
質問６　手を洗った後、拭きますか？（複数回答可）



質問７　お腹をこわしたり、病気にならないために手洗いは必要だと思いますか？

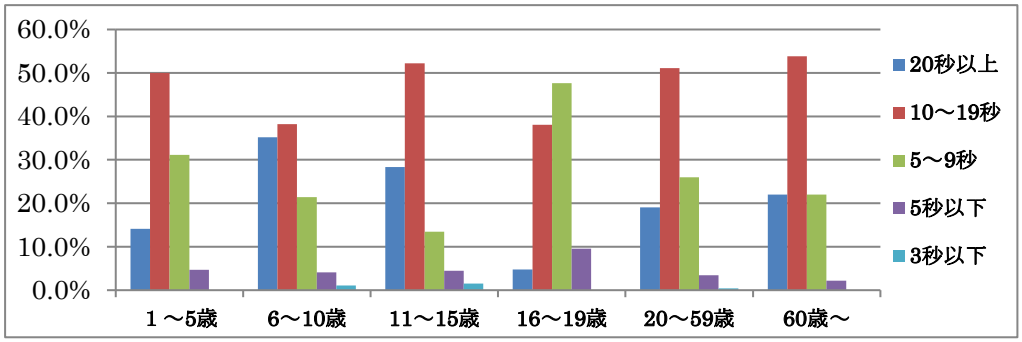


質問８　一日に何回ぐらい手を洗いますか？

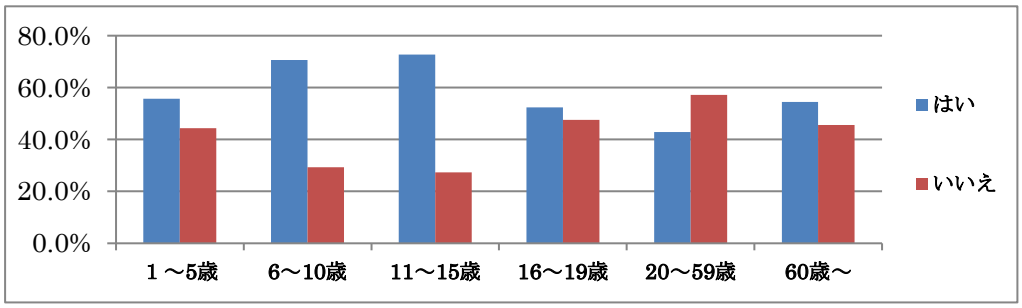


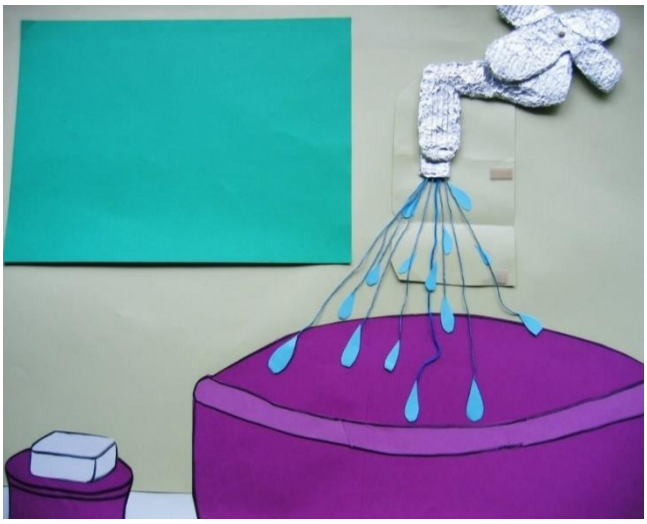
（年齢層別比較－日本）

質問　9.　どのくらいの時間洗いますか？



質問　10　石けんを使っているとき水は止めますか？





APHW オリジナル「アミナタ＆ママドゥ」の紙芝居より

Ⅳ．アンケート調査結果の解析

（1）4か国全回答－1575票の解析

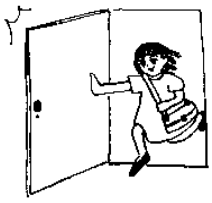
1：**「良く手を洗うか」**に対して「良く洗う」と「洗う」が90%であるが、「洗わない」と「たまに洗う」の回答が10%もある事は今後の課題である。（11頁参照）

2：**「生活場面」**での「洗わない」と「たまに洗う」の回答比率：

お菓子を食べる前；**53.3%**

食事の前；**40.6%**

外から帰った時；**29%**



食事の手伝いの前；**26.9%**

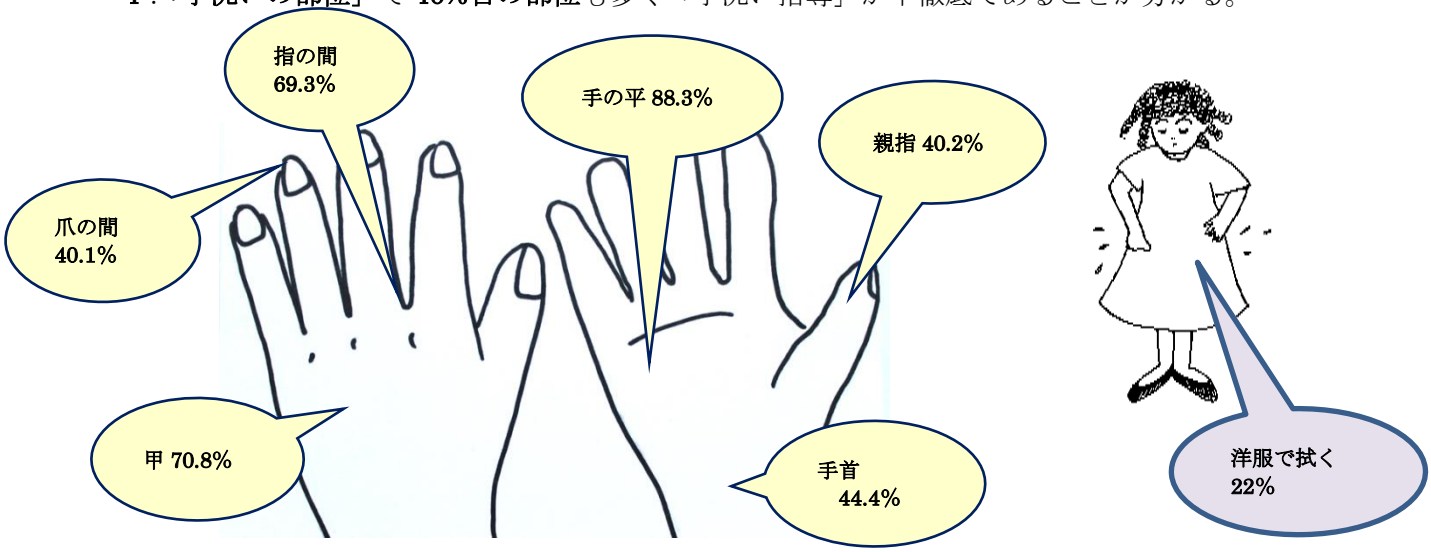
トイレの後；**17.7%**

動物を触った後；**17.1%**

上記のうち「お菓子を食べる前」「食事の前」「外から帰った時」「食事の手伝いの前」など重要な場面での比率が高く、手洗いの習慣がまだ定着していないことが分かる。

3：**「石けんを使うか」**で「使わない」が**2.1%**で概ね使っている。

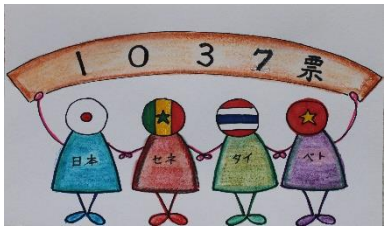
4：**「手洗いの部位」**で**40%台の部位**も多く「手洗い指導」が不徹底であることが分かる。



5：**「濯ぎ」**において「きちんと濯がない」は4%程度だが、きれいな水の入手源の有無が関わる問題なので一概には評価できない。

6：**「洗った手を拭く方法」**は多様だが、洋服で拭くが**22%**もあり2次感染を招きかねない課題として国別に考慮する必要があろう。

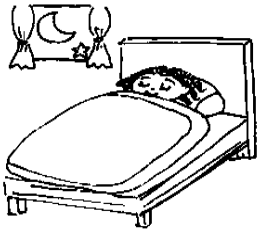
7：**「手洗いによる防疫効果」**は大体は常識として理解されている。否定は**4.2%**。（12頁参照）



（２）４か国別比較－就学児童低・中学年（6～15 歳）－1032 票の解析

1 :「良く手を洗うか」に対し「良く洗う」は日本とセネガルが低くタイとベトナムが高い。「洗う」を合わせると何れも 80%以上となるが、「洗わない」と「たまに洗う」を合わせると逆にタイ、ベトナムが何れも 13%と手洗いをしない率が高く問題である。

2-1～2-8：生活場面では、「食事の前」で「良く洗う」はセネガルが食事習慣を反映して非常に高く（95%）、「洗う」を加えるとタイ、ベトナムも 90%超だが、日本では「洗わない」が 11%もある。「トイレの後」では日本とセネガルが「良く洗う」が 88～95%と高く、タイとベトナムは何れも 70%弱で低い。「お菓子を食べる前」では、セネガルでは 50%超が「良く洗う」だが、他の国では 40%台。「外から帰ったとき」は「良く洗う」は日本の 86.6%が最高で習慣化されているが、タイ、ベトナムは 50%弱。「洗わない」はセネガルの 28.6%が最高。「食事の手伝いの前」では性別による違いが反映されると思うがベトナムが低い。



「動物を触った後」は国により対象動物に大きな違いがあると思われるので国別比較はできない。

「寝る前」の手洗いは生活習慣を反映し、「良く洗う」は日本とセネガルは低くタイとベトナムが高い。

3 :「石けんをいつも使う」はセネガルの 85.7%が最高でタイ、ベトナムは夫々47%、39%と低い。「使わない」はタイ、ベトナムが何れも 3%台ある。

4 :「手洗いの部位」ではセネガルが全体として低く、「複数回答可」が理解されなかった可能性がある。一般的に手の平、甲、指の間は成績が良いが、爪の間、親指、手首は成績が良くない。全部位に均等に渉る「手洗い運動」教育の強化が望まれる。

5 :「濯ぎ」で「きちんと濯がない」はセネガルが 24.1%と高く、水の供給に問題がある事を伺わせる。

6 :「手を拭く方法」では「タオル・ハンカチの利用」はタイ、ベトナムで低く、「洋服で拭く」ケースが多い。「髪の毛で拭く」はタイが 14%と高い。乾燥機、ペーパータオルはセネガル以外の 3 国では 20%台で経済レベルの差か、「その他」はタイが 38%と高いが内容は不明。

7:「手洗いによる防疫効果の理解」では他の 3 国では９０％超だがセネガルは 71%と低い。

（13 頁～16 頁参照）

（3） 日本・性別比較－年齢層別
－883 票の解析

1）1～5 歳―106 票の解析：

ほとんどのケースで女児が男児より手洗いの成績が良い。

1：**「良く手を洗うか」**に対し、男児の「たまに洗う」が 18%と高い。

2-1～2-8：**「食事の前」**の手洗いでは男女とも「洗わない」が 16%もあり、「良く洗う」は男児が 53%、女児が 39%と何れも低い。

「トイレの後」は男女夫々82%、91%で女児が良い。

「食事＆お菓子を食べる前」は男児が運動などで汚すことが多く手洗いを促されるため、この期間は男児の手洗い率が高い。

3：**「石鹸をいつも使うか」**は男児の使う率が低い。

4：**「手洗いの部位」**では手のひら、甲、指の間は男女とも 70%以上、特に女児は 86%～98%と高率。但し爪の先、親指、手首は何れも低調で、学校教育のような正規の手洗い法が教育されていないことが伺える。

5：**「濯ぎ」**は女児の「よく濯ぐ」が 91%と高い。

6：**「手を拭く方法」**では男女とも似た状況で、タオル・ハンカチが主流である。

7：**「手洗いによる防疫効果の理解度」**は男女とも 100%である。

8～9：**「手洗い回数」「時間」**の加重平均値は男女夫々7.25 回、7.26 回、12.1 秒,12.9 秒。

10：**「石けん使用中に水を止めるか」**については「止めない」が男女夫々48%、41.1%で日本における豊富な上水供給事情を反映している。（17 頁～19 頁参照）

2）6～15 歳―454 票の解析：

この年代層では 1～5 歳以上に女児の手洗い成績が殆どの質問項目において男児を凌駕しており、学校教育における習得効率において女性が優れていることが伺える。

1：**「良く手を洗うか」**で「良く洗う」と「洗う」は女児は 94%、男児は 88%である。

2-1～2-8：**「朝起きた時」**の手洗いは日本の習慣を反映して「洗わない」が男女夫々52%、48%と低い。**「食事の前」**では「良く洗う」が女児 59%、男児 54%と 5 歳未満の幼児に比べて女性の改善が大きい。「洗わない」も女児は 9. 3%と著しく改善、男児は 13%でやや改善。**「トイレの後」**では「良く洗う」は女児 89%男児 87%、「洗わない」は女児が 2%で男児は 0%。**「お菓子を食べる前」**では男児が悪くなっている。「良く洗う」は女児 56%男児 42%で食事とお菓子では対応が異なる。「洗わない」は 13%、18%と高い。**「外から帰ったとき」**では「良く洗う」は女児 90%男児 83%、「たまに洗う」と「洗わない」で女性は 10%、男児は 17%もあり男児にやや問題がある。**「食事の手伝いの前」**では「良く洗う」は女児 83%に対し男児 70%と低いが、台所の手伝いでは習慣的に男女差がある点が考えられる。

3：**「石鹸を使うか」**は「いつも使う」「よく使う」が男女とも 80%前後とまずまずである。

4:「手洗いの部位」に関しては学校教育の効果が顕著にみられる結果である。6 部位中で最低の部位でも 50%超が洗っており、1～5 歳層と比較すると良く分かる。

5 :「濯ぎ」では「いつでも」「時々」を合わせると男女とも 98%と高い。

6:「手を拭く方法」は殆どの児童（男児 90%、女児 94%）がハンカチ、タオルを用いている。

7:「手洗いによる防疫効果」についても殆どの児童は理解している。

8～9 :「手洗い回数」「時間」の加重平均値は男女夫々7.32 回、7.74 回、13.7 秒、15.1 秒。

10:「石けん使用中に水を止めるか」については「止めない」が男女夫々23.1%、34.7%で幼児期より更に経済感覚が進歩している。（20 頁～22 頁参照）

３）20 歳以上―323 票の解析：

成人においても、殆ど全ての面で女性の手洗い習慣は男性を凌いでいる。

1 :「良く手を洗うか」に対し「良く洗う」と「洗う」で女性は 97%、男性は 90%で「洗わない」は両者とも 0 である。

2-1～2-8 :「朝起きた時」に「良く洗う」が女性 68%、男性 50%で過半数の成人男女は朝起きた時の手洗いを行っている。「洗わない」は女性 20%、男性 34%で過半数が「洗わない」未成年とは大きく異なる。「食事の前」は「良く洗う」が女性 86%、男性 63%で男性の率が低い。「洗わない」は女性 4%、男性 5%である。「トイレの後」では「良く洗う」は女性 100%、男性 95%でほぼ完全に近い手洗い率である。「お菓子を食べる前」は「良く洗う」は女性 55%、男性 35%で低レベルである。「洗わない」も女性 10%、男性 17%と高く、低年齢層と比べてむしろ悪化している。「外から帰ったとき」では「良く洗う」は女性 92%と高いが男性は 75%と低い。外部からの感染菌導入防御のためにも更に自覚が必要。「食事の手伝いの前」では「良く洗う」は女性 96%、男性 85%。「動物に触った後」は男女共に 80 パーセント台で「洗わない」は男女夫々5%、3%。ペット以外の動物に接触した結果、感染症で死亡したケースもあり手洗い強化が必要。

3 :「石けんを使うか」に対して「いつも使う」と「よく使う」が女性は 83%、男性は 73%である。

4 :「手洗いの部位」については手の平、甲、指の間については 70%～95%と高いが、爪の先、親指、手首は何れも 30%台と低い。手洗い法の教育を受けていない世代のせいか。

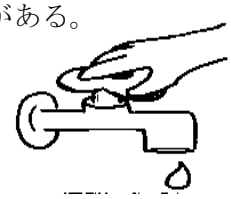
5 :「濯ぎ」では「きちんと濯ぐ」は女性 93%、男性 87%、「濯がない」は女性 1%、男性 4%。

6 :「手を拭く方法」は殆どの男女はハンカチ、タオルで拭き、その他は 30%以下である。

7 :「手洗いによる防疫効果」で「いいえ」と回答した男性が 6.7%と高いのが問題である。

8 :「手洗いの回数」は平均値で女性が 9.91 回、男性が 7.97 回と約 2 回の差がある。

9 :「手洗い時間」では平均値で女性が 14.2 秒、男性は 12.3 秒で 2 秒の差。



10 :「石けん使用中に水を止めるか」に対し「止める」は女性が 51%、男性が 39%と何れも低く水の価値につき鈍感である。（23 頁～25 頁参照）

（4）日本・年齢層別比較－905 票の解析

1：**「良く手を洗うか」**に対し「良く洗う」は 60 歳以上の高齢者層が 61%で最も高く、20 歳以上の成人層が 46%で続く。16-19 歳層が 20%で最低。

2-1～2-8：「生活場面での手洗い率」の高い年齢層：

お菓子を食べる前；60 歳以上

食事の前；60 歳以上

外から帰った時；1-5 歳

食事の手伝いの前；60 歳以上

トイレの後；16-19 歳

動物を触った後；1-5 歳

「朝起きた時」では高齢になるほど朝起きた時の手洗いを行っている。60 歳以上の 76%が「良く洗う」、20-59 歳が 55%で続く。1-5 歳と 11-15 歳層が低い。

「食事の前」では「良く洗う」は 60 歳以上が 79%で最高、20-59 歳層が 75%で続く。その他は 46-58%で 1-5 歳、16-19 歳層が低い。

「トイレの後」では「良く洗う」は 16-19 歳層が 100%、20 歳以上の成人と高齢者は 98%と高いが、11-15 歳層が 93%、6～10 歳層と 1～5 歳層は共に 87%で低年齢程低い。

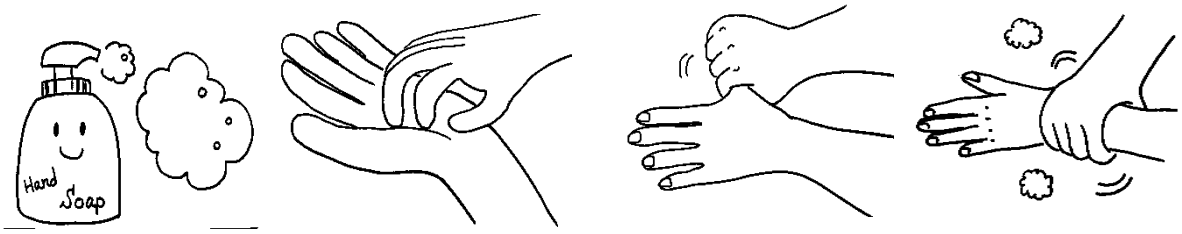
「お菓子を食べる前」は「良く洗う」は 60 歳以上が 55%で最高、他は 50%以下。特に 16-19 歳層は 19%で最低。「洗わない」も 16-19 歳層が 29%で最高。10 代後半はトイレの後の手洗いと対照的傾向を示す。

「外から帰ったとき」では「良く洗う」は全年齢層で 80%超で特に 1-5 歳、16-19 歳層が夫々92%、91%と高い。

「食事の手伝いの前」では「良く洗う」は 60 歳以上の高齢者層が最高の 93%で 20 歳以上の成人層が 91%で続く。11-15 歳層が 66%で最低（食事の手伝いをしないためか？）。

「動物を触った後」では「良く洗う」は 1-5 歳、6-10 歳層が 90%以上で高いが、16-19 歳層は 64%で最低。「洗わない」は 16-19 歳層が 23%と高い。（26～28 頁参照）

3：**「石けんを使うか」**では「いつも使う」は 1-10 歳層が 50%超だが、成人は 40%ほど、10 代は 30%台。家庭外では石けんの備え付けの無い手洗い場が多いことによるものか。



4：**「手洗いの部位」**では 11-15 歳層の各部位平均値は 75%で最高、次いで 6-10 歳層の 72%。おそらく学校教育の現れ。他の年齢層では爪の間、親指、手首は 20%から 30%と低い。

5：**「濯ぎ」**では「きちんと濯ぐ」は 16～19 歳で 96%、20～59 歳で 92%、その他も全て 80%以上で石鹸を使った後は「濯ぐ」習慣が身についている。

6：**「手を拭く方法」**ではハンカチ・タオル使用が 60 歳以上 97%、16-19 歳 77%で他は 90%以上。

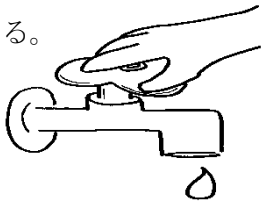
7：**「手洗いによる防疫効果の理解度」**については「はい」は 1-5 歳、60 歳以上が 100%、16-19 歳が「いいえ」が 9・5 パーセントと高い。

8：**手洗い回数順位；**

最多回数は 60 歳以上の 9.6 回、次いで 20 歳以上の成人が 8.9 回、6－10 歳が 7.6 回、11－15 歳が 7.2 回、最少が 16-19 歳層の 5.9 回である。（29 頁参照）

9：**「手洗いの時間」**で加重平均は 1-5 歳：12.5 秒、6-10 歳：14.3 秒、11-15 歳：14.5 秒、16-19 歳：10.3 秒、20-59 歳：13.2 秒、60 歳以上：13.9 秒である。

10：**「石けん使用時の止水」**について「はい」は 6-10 歳（71%）、11-15 歳（73%）が双璧で、他は 40%～50%台である。(28～30 頁参照)



Ⅴ．解析結果の総括と今後の検討課題（指針策定）

（1） 主要な課題

本アンケート調査の結果解析から国別、年齢別、性別の多くの問題が観察された。その詳細については更に研究が必要だが、以下は特に重要な研究課題と総括的課題の指摘を行ってみた。

◇**全体として**「洗わない」と「たまに洗う」が 10%という数値は重要である。今後如何にしてこの数値を低減できるかを研究する必要がある。

◇生活の場面での重点

① 「食べる前（菓子を含む）」の手洗いの徹底

② 「トイレの後」の手洗いの徹底

③ 「外から帰ったとき」の手洗いの徹底

④ 「食事の手伝いの前」の手洗いの徹底

◇6 か所の手洗い部位の教育を徹底する。日本の 6～15 歳の結果に見る通り、教育により 6 か所の手洗いが均等に行われるようになることが実証されている。

◇石けんの効用を明示的に指導する必要がある。外出先では必ずしも備え付けの石けんが無い場合もあるが、食事などの重要な場面では石けん使用を徹底する指導を。少なくとも学校では石鹸の常備が必要。

◇大人教育の必要性：「外から帰ったとき」は児童のみならず、外部でキャリアーとの接触機会の多い成人に対しても「手洗い」を徹底させる方法（家庭に手洗いポスター等）を子供達と共同で考案。

◇きれいな水の供給：セネガルのように水供給が困難な国での手洗い対策が必要。

◇手洗いの後、何で手を拭くか：洋服や髪や汚れたタオルなどで拭くと逆に再汚染する可能性があるので正しい手の拭き方の指導が必要。

◇手洗いの回数と時間については、適正な標準値を研究する必要がある。

（２） 調査の終りに

本報告書前半で掲げた WHO 統計に見る通り、世界における感染症罹患率は各国の経済レベルの差を反映して、アフリカ、東南アジア、中南米の諸国において高い。

一方、本調査の結果より想像的に観察される実態は、当該国国民個人の日常生活における健康維持に関する自由な認識と手洗いを含む選択的な健康維持行為の中で、常在菌との不用意な出会いが発生し、意図せずして感染症に罹患する不幸が起きている。

「手洗い」が感染症防止の万能薬では勿論ないが、アンケート調査結果を通じて、各国の各国民の日常生活の実態は余りにも「無防備」で「油断」に満ちたものであることが判明した。それでも、日本のように経済的に恵まれた環境では、衛生状態の良い生活環境、上下水道や医療施設の完備等の社会インフラ整備が行われており、同じ感覚での日常生活でも、アフリカ諸国等と比較して感染症に罹患するリスクは少ない。

我々APHW は本調査の分析結果を受けて、社会インフラ整備が未発達な環境の中でも「手洗い」という単純な行為がもたらす国民保健上の意味と可能性を厳しく再認識し、各国・各地における現実の生活環境を熟慮した上で、従来の活動路線に新たな戦略を増補して、各国、各地に「手洗い」の習慣を定着させる努力を継続していきたいと考える。

参考文献：（１）ユニセフホームページ　ユニセフの財政

（２）WHO　World Health Statistics 2016 Global Health Observatory

手を洗おう！

2S（躾と習慣）キャンペーン

手洗いは 6 箇所がポイント　　**手を洗おう会 aphw**

1：手のひら

2：手の甲（こう）

3：指（ゆび）の間

4：爪（つめ）の間

5：親指（おやゆび）

6：手首（てくび）

手を洗おう♪
よくあわ立てて♪
あなたのため♪
幸せのために♪

なぜ「手洗い」が大事なの？

手にはお腹を壊したり、風邪にかかってしまうばい菌が一杯！
石鹸を使ってきちんと「手洗い」すれば、
それらのばい菌が身体の中に入るのを防げるんだ！

どんな時に手を洗えばいいの？

１食事の前に！
２トイレに行った後に！
３ 外から帰ったときに！
４咳やくしゃみをしたり、鼻をかんだ後に！
５その他、手が汚れたときはいつでも！

（2017 年配布ポスター）

♪♪手を洗おう♪♪
♪♪石鹸泡立てて♪♪
♪♪あなたのために♪
♪

特定非営利活動法人

手を洗おう会 aphw

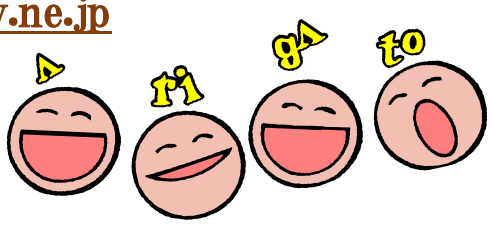
＜未来を背負う子供たちに勇気と希望を＞

セネガル・ダカールのストリートチルドレンへ
当会より手洗い用タンクを寄付し手洗い指導をする

会員募集中世界の子供たちとのボランティア交流に参加しませんか！

入会金:0円　年会費:3000円

事務局-連絡先:bonpain-@fw.catv.ne.jp



発行:特定非営利活動法人　手を洗おう会 aphw

発行責任者:古屋典子　編集責任者:白石正明

発行日:2017 年 10 月　　**定価:　1,000 円(税込)**